

ヨハネによる福音書

第一章

「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は初めに神と共にあった。三すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。四この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。五光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。

六ここにひとりの人があって、神からつかわされていた。その名をヨハネと言った。七この人はあかしのためにきた。光についてあかしをし、彼によってすべての人が信じるためである。八彼は光ではなく、ただ、光についてあかしをするためにきたのである。

九すべての人を照すまことの光があって、世にきた。一〇彼は世にいた。そして、世は彼によってできたのであるが、世は彼を知らずにいた。二彼は自分のところに来たのに、自分の民は彼を受けいれなかった。三しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。四それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲によらず、ただ神によって生れたのである。

一四そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた。一五ヨハネは彼についてあかしをし、叫んで言った、『わたしのあとに来るかたは、わたしよりもすぐれたかたである。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この人のことである。一六わたしたちすべての者は、その満ち満ちているものの中から受けて、めぐみにめぐみを加えられた。一七律法はモーセをおしと与えられ、めぐみとまこととは、イエス・キリストをとおしてきたのである。一八神を見た者はまだひとりもない。ただ父のふところにいるひとり子なる神だけが、神をあらわしたのである。

一九さて、ユダヤ人たちが、エルサレムから祭司たちやレビ人たちをヨハネのもとにつかわして、『あなたはどなたですか』と問わせたが、その時ヨハネが立てたあかしは、こうであった。二〇すなわち、彼は告白して否まず、『わたしはキリストではない』と告白した。二一そこで、彼らは問うた、『それでは、どなたなのですか、あなたはエリヤですか』。彼は『いや、そうではない』と言った。『では、あの預言者ですか』。彼は『いいえ』と答えた。二三そこで、彼らは言った、『あなたはどなたですか。わたしたちをつかわした人々に、答を持って行けるようにしていただきたい。あなた自身をだれだと考えるのです』

か。二三彼は言った、「わたしは、預言者イザヤが言ったように、『主の道をまっすぐにせよと荒野で呼ばれる者の声』である」。

二四つかわされた人たちは、パリサイ人であった。二五彼らはヨハネに問うて言った、「では、あなたがキリストでもエリヤでもまたあの預言者でもないのなら、なぜバプテスマを授けるのですか」。二六ヨハネは彼らに答えて言った、「わたしは水でバプテスマを授けるが、あなたがたの知らないかたが、あなたがたの中に立っておられる。二七それがわたしのあとにおいになる方であって、わたしはその人のくつのひもを解く値うちもない」。二八これらのことは、ヨハネがバプテスマを授けていたヨルダンの向こうのベタニヤであったのである。

二九その翌日、ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て言った、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。三〇」わたしのあとに来るかたは、わたしよりもすぐれたかたである。わたしよりも先におられたからである」とわたしが言ったのは、この人のことである。三一わたしはこのかたを知らなかった。しかし、このかたがイスラエルに現れてくださるそのことのために、わたしはきて、水でバプテスマを授けているのである。三二ヨハネはまたあかしをして言った、「わたしは、御霊がはどのように天から下って、彼の上にとどまるのを見た。三三わたしはこの人を知らなかった。しかし、水でバプテスマを授けるよう

にと、わたしをおつかわしになったそのかたが、わたしに言われた、『ある人の上に、御霊が下ってとどまるのを見た、その人こそは、御霊によってバプテスマを授けるかたである』。三四わたしはそれを見たので、このかたこそ神の子であると、あかしをしたのである」。

三五その翌日、ヨハネはまたふたりの弟子たちと一緒に立っていたが、三六イエスが歩いておられるのに目をとめて言った、「見よ、神の小羊」。三七そのふたりの弟子は、ヨハネがそう言うのを聞いて、イエスについて行った。三八イエスはふり向き、彼らがついてくるのを見て言われた、「何か願ひがあるのか」。彼らは言った、「ラビ(訳して言えば、先生)どこにおとまりのですか」。三九イエスは彼らに言われた、「きてごらんさい。そうしたらわかるだろう」。そこで彼らはついて行って、イエスの泊まっておられる所を見た。そして、その日はイエスのところに泊まった。時は午後四時ごろであった。四〇ヨハネが

ら聞いて、イエスについて行ったふたりのうちのひとり、シモン・ペテロの兄弟アンデレであった。四一彼はまず自分の兄弟シモンに出会って言った、「わたしたちはメシヤ(訳せば、キリスト)にいま出会った」。四二そしてシモンをイエスのもとにつれてきた。イエスは彼に目をとめて言われた、「あなたはヨハネの子シモンである。あなたをケバ(訳せば、ペテロ)と呼ぶことにする」。

四三その翌日、イエスはガリラヤに行こうとされたが、

ビリポに出会って言われた、「わたしに従ってきなさい」。
 四四 ビリポは、アンデレとペテロとの町ベツサイダの人であつた。
 四五 このビリポがナタナエルに出会って言った、「わたしたちは、モーセが律法の中にしるしており、預言者たちがしるしていた人、ヨセフの子、ナザレのイエスにいま出会った」。
 四六 ナタナエルは彼に言った、「ナザレから、なんのよいものが出ようか」。ビリポは彼に言った、「きて見なさい」。
 四七 イエスはナタナエルが自分の方に来るのを見て、彼について言われた、「見よ、あの人こそ、ほんとうのイスラエル人である。その心には偽りがな

い」。四八 ナタナエルは言った、「どうしてわたしをご存じなのですか」。イエスは答えて言われた、「ビリポがあなたを呼ぶ前に、わたしはあなたが、いちじくの木の下にいるのを見た」。四九 ナタナエルは答えた、「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」。五〇 イエスは答えて言われた、「あなたが、いちじくの木の下にいるのを見たと、わたしが言ったので信じるのか。これよりも、もっと大きなことを、あなたは見るであろう」。五一 また言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。天が開けて、神の御使たちが人の子の上に上り下りするのを、あなたがたは見るであろう」。

第二章 「三日目にガリラヤのカナに婚礼があつて、イエスの母がそこにいた。ニイエスも弟子たちも、その婚礼に招かれた。三ぶどう酒がなくなつたので、

母はイエスに言った、「ぶどう酒がなくなつてしまひました」。四 イエスは母に言われた、「婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありますか。わたしの時は、まだきていません」。五 母は僕たちに言った、「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい」。六 そこには、ユダヤ人のきよめのならわしに従つて、それぞれ四、五斗もはいる石の水がめが、六つ置いてあつた。七 イエスは彼らに「かめに水をいっぱい入れなさい」と言われたので、彼らは口のところまでいっぱいに入れた。八 そこで彼らに言われた、「さあ、くんで、料理がしらのところに持って行きなさい」。すると、彼らは持つて行った。九 料理がしらは、ぶどう酒になつた水をなめてみたが、それがどこからきたのか知らなかつたので、「水をくんだ僕たちは知つていた」花婿を呼んで、「言つた、
 「どんな人でも、初めによいぶどう酒を出して、酔いがまわつたところにわるいを出すものだ。それなのに、あなたはよいぶどう酒を今までとっておかれました」。二 イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行い、その栄光を現された。そして弟子たちはイエスを信じた。

三 そののち、イエスは、その母、兄弟たち、弟子たちと一緒に、カペナウムに下つて、幾日かそこにとどまられた。

三 さて、ユダヤ人の過越の祭が近づいたので、イエス

はエルサレムに上られた。^{一四}そして牛、羊、はとを売る者や両替する者などが宮の庭にすわり込んでゐるのをごらんになって、^{一五}なわでむちを造り、羊も牛もみな宮から追いだし、両替人の金を散らし、その台をひっくりかえし、^{一六}はとを売る人々には「これらのものを持って、ここから出て行け。わたしの父の家を商売の家とするな」と言われた。^{一七}弟子たちは、「あなたの家を思う熱心が、わたしを食いつくすであろう」と書いてあることを思い出した。^{一八}そこで、ユダヤ人はイエスに言った、「こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せてくれますか」。^{一九}イエスは彼らに答えて言われた「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう」。^{二〇}そこで、ユダヤ人たちは言った、「この神殿を建てるのには、四十六年もかかっています。それなのに、あなたは三日のうちに、それを建てるのですか」。^{二一}イエスは自分のからだである神殿のことを言われたのである。^{二二}それで、イエスが死人の中からよみがえったとき、弟子たちはイエスがこう言われたことを思い出して、聖書とイエスのこの言葉とを信じた。

^{二三}過越の祭の間、イエスがエルサレムに滞在しておられたとき、多くの人々は、その行われたしるしを見て、イエスの名を信じた。^{二四}しかしイエスご自身は、彼らに自分をお任せにならなかった。それは、すべての人を知っておられ、^{二五}また人についてあかしする者を、必要

とされなかったからである。それは、ご自身人の心の中にあることを知っておられたからである。

第三章 パリサイ人のひとりで、その名をニコデモというユダヤ人の指導者があつた。^二この人が夜

イエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。神がご一緒でないなら、あなたがなさっておられるようなしるしは、だれにもできはしません」。^三イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言っておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」。^四ニコデモは言った、「人は年をとってから生れることが、どうしてできますか。もう一度、母の胎にはいつて生れることができませんか」。^五イエスは答えられた、「よくよくあなたに言っておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない」。^六肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である。^七あなたがたは新しく生れなければならぬと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない。^八風は思ひのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである」。^九ニコデモはイエスに答えて言った、「どうして、そんなことがあり得ましょうか」。^{一〇}イエスは彼に答えて言われた、「あなたはイスラエルの教師でありながら、これぐらゐのことがわからないのか。

二よくよく言っておく。わたしたちは自分の知っていることを語り、また自分の見たことをあかししているのに、あなたがたはわたしたちのあかしを受けいれない。三わたしが地上のことを語っているのに、あなたがたが信じないならば、天上のことを語った場合、どうしてそれを信じるだろうか。四天から下ってきた者、すなわち人の子のほかには、だれも天に上った者はない。五そして、ちやうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない。六それは彼を信じる者が、すべて永遠の命を得るためである。

七神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。八神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。九彼を信じる者は、さばかれない。信じない者は、すでにさばかれてゐる。神のひとり子の名を信じることをしないからである。一〇そのさばきというのは、光がこの世にきたのに、人々はそのおこないが悪いために、光よりもやみの方を愛したことである。一一惡を行っている者はみな光を憎む。そして、そのおこないが明るみに出されるのを恐れて、光にこようとはしない。一二しかし、真理を行っている者は光に來る。その人のおこないの、神にあってなされたということが、明らかにされるためである。

三こののち、イエスは弟子たちとユダヤの地に行き、彼らと一緒にそこに滞在して、バプテスマを授けておられた。四ヨハネもサリムに近いアイノンで、バプテスマを授けていた。そこには水がたくさんあったからである。人々がぞくぞくとやってきてバプテスマを受けていた。五そのとき、ヨハネはまだ獄に入れられてはいなかった。六ところが、ヨハネの弟子たちとひとりのユダヤ人との間に、きよめのことで争論が起った。七そこで彼らはヨハネのところに来て言った、「先生、ごらん下さい。ヨルダンの向こうであなたと一緒にいたことがあり、そして、あなたがあかしをしておられたあのかたが、バプテスマを授けており、皆の者が、そのかたのところへ出かけています」。八ヨハネは答えて言った、「人は天から与えられなければならない、何ものも受けることはできない。九『わたしはキリストではなく、そのかたよりも先につかわれた者である』と言ったことをあかししてくれるのは、あなたがた自身である。一〇花嫁をもつ者は花婿である。花婿の友人は立って彼の声を聞き、その声を聞いて大いに喜ぶ。こうして、この喜びはわたしに満ち足りている。一一彼は必ず榮え、わたしは衰える。

一二上から來る者は、すべてのものの上にある。地から出る者は、地に属する者であって、地のことを語る。天から來る者は、すべてのものの上にある。一三彼はその見たところ、聞いたところをあかししているが、だれもそ

のあかしを受けいれない。三しかし、そのあかしを受けいれる者は、神がまことであることを、たしかに認めたのである。四神がおつかわしになったかたは、神の言葉を語る。神は聖霊を限りなく賜うからである。五父は御子を愛して、万物をその手にお与えになった。六御子を信じる者は永遠の命をもつ。御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまるのである」。

第四章 イエスが、ヨハネよりも多く弟子をつくり、またバプテスマを授けておられるということを、

パリサイ人たちが聞き、それを主が知られたとき、二しかし、イエスみずからが、バプテスマをお授けになったのではなく、その弟子たちであった。三ユダヤを去って、またガリラヤへ行かれた。四しかし、イエスはサマリヤを通過しなければならなかった。五そこで、イエスはサマリヤのスカルという町においでになった。この町は、ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにあったが、六そこにヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れを覚えて、そのまま、この井戸のそばにすわっておられた。時は昼の十二時ごろであった。七ひとりのサマリヤの女が水をくみにきたので、イエスはこの女に、「水を飲ませて下さい」と言われた。八弟子たちは食物を買いに町に行っていたのである。九すると、サマリヤの女はイエスに言った、「あなたはユダヤ人でありながら、どうしてサ

マリヤの女のわたしに、飲ませてくれとおっしゃるのですか」。これは、ユダヤ人はサマリヤ人と交際していなかったからである。一〇イエスは答えて言われた、「もしあなたが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願ひ出て、その人から生ける水をもらったことであろう」。一一女はイエスに言った、「主よ、あなたは、くむ物をお持ちにならず、その上、井戸は深いのです。その生ける水を、どこから手に入れるのですか。三あなたは、この井戸を下さったわたしたちの父ヤコブよりも、偉いかたなのですか。ヤコブ自身も飲み、その子らも、その家畜も、この井戸から飲んだのですが」。三イエスは女に答えて言われた、「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう。四しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」。五女はイエスに言った、「主よ、わたしがかわくことがなく、また、ここにくみにこなくてもよいように、その水をわたしに下さい」。六イエスは女に言われた、「あなたの夫を呼びに行つて、ここに連れてきなさい」。七女は答えて言つた、「わたしには夫はありません」。イエスは女に言われた、「夫がないと言つたのは、もっともだ。八あなたには五人の夫があつたが、今のはあなたの夫ではない。あなた

の言葉のとおりである。一九女はイエスに言った、「主よ、わたしはあなたを預言者と見ます。二〇わたしたちの先祖は、この山で礼拝をしたのですが、あなたがたは礼拝すべき場所、エルサレムにあると言っています。三イエスは女に言われた、「女よ、わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが、この山でも、またエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。三あなたがたは自分の知らないものを拝んでいるが、わたしたちは知っているかたを礼拝している。救はユダヤ人から来るからである。三しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまことをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。四神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまことをもって礼拝すべきである。五女はイエスに言った、「わたしは、キリストと呼ばれるメシヤが知られることを知っています。そのかたがこられたならば、わたしたちに、いっさいのことを知らせて下さるでしょう。六イエスは女に言われた、「あなたと話をしているこのわたしが、それである」。

七そのとき、弟子たちが帰って来て、イエスがひとりの女と話しておられるのを見て不思議に思ったが、しかし、「何を求めておられますか」とも、「何を彼女と話しておられるのですか」とも、尋ねる者はひとりもなかった。八この女は水がめをそのままそこに置いて町に行

き、人々に言った、二九わたしのしたことを何もかも、言いあてた人がいます。さあ、見に来てごらん下さい。もしかしたら、この人がキリストかも知れません。三〇人は町を出て、ぞくぞくとイエスのところへ行つた。三その間に弟子たちはイエスに、「先生、召しあがってください」とすすめた。三二ところが、イエスは言われた、「わたしには、あなたがたの知らない食物がある。三三そこで、弟子たちが互に言った、「だれかが、何か食べるものを持ってきてさしあげたのであろうか」。三四イエスは彼らに言われた、「わたしの食物というのは、わたしをつかわされたかたのみこころを行い、そのみわざをなし遂げることである。三五あなたがたは、刈入れ時が来るまでは、まだ四か月あると、言っているではないか。しかし、わたしはあなたがたに言う。目をあげて畑を見なさい。はや色づいて刈入れを待っている。三六刈る者は報酬を受けて、永遠の命に至る実を集めている。まく者も刈る者も、共に喜ぶためである。三七そこで、『ひとりがまき、ひとりが刈る』ということわざが、ほんとうのこととなる。三八わたしは、あなたがたをつかわして、あなたがたがそのために労苦しなかったものを刈りとらせた。ほかの人々が労苦し、あなたがたは、彼らの労苦の実にあずかっているのである」。

三九さて、この町からきた多くのサマリヤ人は、「この人は、わたしのしたことを何もかも言いあてた」とあかし

した女の言葉によつて、イエスを信じた。四〇そこで、サマリヤ人たちはイエスのもとにきて、自分たちのところに滞在していただきたいと願つたので、イエスはそこにふつか滞在された。四一そしてなお多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。四二彼らは女に言った、「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることが、わかつたからである」。

四三ふつかの後に、イエスはここを去つてガリラヤへ行かれた。四四イエスはみずからはっきり、「預言者は自分の故郷では敬われないものだ」と言われたのである。四五ガリラヤに着かれると、ガリラヤの人たちはイエスを歓迎した。それは、彼らも祭に行つていたので、その祭の時、イエスがエルサレムでなされたことをことごとく見ていたからである。

四六イエスは、またガリラヤのカナに行かれた。そこは、かつて水をぶどう酒にかえられた所である。ところが、病氣をしているむすこを持つある役人がカペナウムにいた。四七この人が、ユダヤからガリラヤにイエスのきておられることを聞き、みもとにきて、カペナウムに下つて、彼の子をなおしていただきたいと、願つた。その子が死にかかつていたからである。四八そこで、イエスは彼に言われた、「あなたがたは、しるしと奇跡とを見ない限り、決して信じないだらう」。四九この役人はイエス

に言った、「主よ、どうぞ、子供が死なないうちにきて下さい」。五〇イエスは彼に言われた、「お帰りなさい。あなたのむすこは助かるのだ」。彼は自分に言われたイエスの言葉を信じて帰つて行つた。五一その下つて行く途中、僕たちが彼に出会い、その子が助かつたことを告げた。五二そこで、彼は僕たちに、そのなおりはじめた時刻を尋ねてみたら、「きのうの午後一時に熱が引きました」と答えた。五三それは、イエスが「あなたのむすこは助かるのだ」と言われたのと同じ時刻であつたことを、この父は知つて、彼自身もその家族一同も信じた。五四これは、イエスがユダヤからガリラヤにきてなされた第二のしるしである。

第五章 「こののち、ユダヤ人の祭があつたので、イエスはエルサレムに上られた。

二エルサレムにある羊の門のそばに、ヘブル語でベテスダと呼ばれる池があつた。そこには五つの廊があつた。三その廊の中には、病人、盲人、足なえ、やせ衰えた者などが、大ぜいからだを横たえていた。四彼らは水の動くのを待つていたのである。五それは、時々、主の御使がこの池に降りてきて水を動かすことがあるが、水が動いた時まっ先にはいる者は、どんな病氣にかかつていても、いやされたからである。六さて、そこに三十八年のあいだ、病氣に悩んでいる人があつた。七イエスはその人が横になつてゐるのを見、また長い間わずらつていたのを

知^しつて、その人^{ひと}に「なおりたいのか」と言^いわれた。セこの病人^{びやうじん}はイエスに答^{こた}えた、「主^{しゅ}よ、水^{みづ}が動く時^{とき}に、わたしを池^{いけ}の中^{なか}に入れてくれる人がいません。わたしがいりかけると、ほかの人が先に降りて行くのです」。ハイエスは彼^{かれ}に言^いわれた、「起^おきて、あなたの床^{とこ}を取りあげ、そして歩^{ある}きなさい」。九すると、この人^{ひと}はすぐにいやされ、床^{とこ}をとりあげて歩^{ある}いて行^いった。

その日^ひは安息日^{あんそくにち}であつた。一〇そこでユダヤ人^{じん}たちは、そのいやされた人^{ひと}に言^いつた、「きょうは安息日^{あんそくにち}だ。床^{とこ}を取りあげるのは、よろしくない」。二彼は答^{こた}えた、「わたしをなおして下さ^{くだ}ったかたが、床^{とこ}を取りあげて歩^{ある}けと、わたしに言^いわれました」。三彼^{かれ}らは尋^{たず}ねた、「取りあげて歩^{ある}けと言^いつた人^{ひと}は、だれか」。二三しかし、このいやされた人^{ひと}は、それがだれであるか知らなかつた。群衆^{ぐんしゆ}がその場^ばにいたので、イエスはそつと出て行^いかれたからである。二四そののち、イエスは宮^{みや}でその人^{ひと}に出会^{であ}つたので、彼^{かれ}に言^いわれた、「ごらん、あなたはよくなつた。もう罪^{つみ}を犯^{おか}してはいけない。何かもつと悪いこと^{わるいこと}が、あなたの身^みに起^{おこ}るかも知^しれないから」。二五彼は出^でて行^いつて、自分^{じぶん}をいやしたのはイエスであつたと、ユダヤ人^{じん}たちに告^つげた。二六そのためユダヤ人^{じん}たちは、安息日^{あんそくにち}にこのようなことをしたと言^いつて、イエスを責^せめた。二七そこで、イエスは彼^{かれ}らに答^{こた}えられた、「わたしの父^{ちち}は今^{いま}に至^{いた}るまで働^{はたら}いておられる。わたしも働^{はたら}くのである」。二八このためにユダヤ人^{じん}

たちは、ますますイエスを殺^{ころ}そうと計^{はか}るようになった。それは、イエスが安息日^{あんそくにち}を破^{やぶ}られたばかりではなく、神^{かみ}を自分の父^{ちち}と呼^よんで、自分^{じぶん}を神^{かみ}と等^{ひと}しいものとされたからである。

一九さて、イエスは彼^{かれ}らに答^{こた}えて言^いわれた、「よくよくあなたがたに言^いつておく。子^こは父^{ちち}のなさることを見^みてする以外^{いがい}に、自分^{じぶん}からは何事^{なにこと}もすることができない。父^{ちち}のなさることであればすべて、子^こもそのとおりにするのである。二〇なぜなら、父^{ちち}は子^こを愛^{あい}して、みずからなさることは、すべて子^こにお示^{しめ}しになるからである。そして、それよりもなお大きなわざを、お示^{しめ}しになるであろう。あなたがたが、それによつて不思議^{ふしぎ}に思^{おも}つたためである。二一すなわち、父^{ちち}が死人^{しにん}を起^{おこ}して命^{いのち}をお与^{あた}えになるように、子^こもまた、そのころろにかなう人々^{ひとびと}に命^{いのち}を与えるであろう。二二父^{ちち}はだれをもさばかない。さばきのことはすべて、子^こにゆだねられたからである。二三それは、すべての人^{ひと}が父^{ちち}を敬^{うやまつ}うと同様^{どうよう}に、子^こを敬^{うやまつ}うためである。子^こを敬^{うやまつ}わない者は、子^こをつかわされた父^{ちち}をも敬^{うやまつ}わない。二四よくよくあなたがたに言^いつておく。わたしの言葉^{ことば}を聞^きいて、わたしをつかわされたかたを信^{しん}じる者は、永遠^{えいゑん}の命^{いのち}を受け、またさばかれることがなく、死^しから命^{いのち}に移^{うつ}つてゐるのである。二五よくよくあなたがたに言^いつておく。死^しんだ人^{ひと}たちが、神^{かみ}の子^この聲^{こゑ}を聞^きく時^{とき}が来る。今^{いま}すでにきてゐる。そして聞^きく人^{ひと}は生きるであろう。二六それは、父^{ちち}がご自分^{じぶん}のうち

に生命をお持ちになつてゐると同様に、子にもまた、自分のうちに生命を持つことをお許しになつたからである。二七そして子は人の子であるから、子にさばきを行う権威をお与えになつた。二八このことを驚くには及ばない。墓の中にゐる者たちがみな神の子の声を聞き、二九善をおこなつた人々は、生命を受けるためによみがえり、悪をおこなつた人々は、さばきを受けるためによみがえつて、それぞれ出てくる時が来るであらう。

三〇わたしは、自分からは何事もすることができない。ただ聞くままにさばくのである。そして、わたしのこのさばきは正しい。それは、わたし自身の考えでするのでなく、わたしをつかわされたかたの、み旨を求めてゐるからである。三一もし、わたしが自分自身についてあかしをするならば、わたしのあかしはほんとうではない。三二わたしについてあかしをするかたはほかにあり、そして、その人がするあかしがほんとうであることを、わたしは知つてゐる。三三あなたがたはヨハネのもとへ人をつかわしたが、そのとき彼は真理についてあかしをした。三四わたしは人からあかしを受けないが、このことを言うのは、あなたがたが救われるためである。三五ヨハネは燃えて輝くあかりであつた。あなたがたは、しばらくの間、その光を喜び楽しむうとした。三六しかし、わたしには、ヨハネのあかしよりも、もっと力あるあかしがある。父がわたしに成就させようとしてお与えになつたわざ、す

なわち、今わたしがしているこのわざが、父のわたしをつかわされたことをあかししてゐる。三七また、わたしをつかわされた父も、ご自分でわたしについてあかしをされた。あなたがたは、まだそのみ声を聞いたこともなく、そのみ姿を見たこともない。三八また、神がつかわされた者を信じないから、神の御言はあなたがたのうちにとどまつてゐない。三九あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思つて調べてゐるが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。四〇しかも、あなたがたは、命を得るためにわたしのもとにこようともしない。四一わたしは人からの誉を受けることはしない。四二しかし、あなたがたのうちには神を愛する愛がないことを知つてゐる。四三わたしは父の名によつてきたのに、あなたがたはわたしを受けいれない。もし、ほかの人が彼自身の名によつて来るならば、その人を受けいれるのであらう。四四互に誉を受けながら、ただひとりの神からの誉を求めようとしないうあなたがたは、どうして信じることができようか。四五わたしがあなたがたのことを父に訴えろと、考へてはいけないう。あなたがたを訴える者は、あなたがたが頼みとしてゐるモーセその人である。四六もし、あなたがたがモーセを信じたならば、わたしをも信じたであらう。モーセは、わたしについて書いたのである。四七しかし、モーセの書いたものを信じないならば、どうしてわたしの言葉を信じるだらうか。

第六 章

「そののち、イエスはガリラヤの海、すなわち、テベリヤ湖の向こう岸へ渡られた。三すると、大ぜいの群衆がイエスについてきた。病人たちになさつていたしるしを見たからである。三イエスは山に登つて、弟子たちと一緒にそこで座につかれた。四時に、ユダヤ人の祭である過越が間近になつていた。五イエスは目をあげ、大ぜいの群衆が自分の方に集まつて来るのを見て、ピリポに言われた、「どこからパンを買つてきて、この人人に食べさせようか」。六これはピリポをためそうとして言われたのであつて、ご自分ではしようとするをよくよくご承知であつた。七すると、ピリポはイエスに答えた、「二百デナリのパンがあつても、めいめいが少しずついただくにも足りませんまい」。八弟子のひとり、シモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った、九「ここに大麦のパン五つと、さかな二ひきとを持ってる子供がいます。しかし、こんなに大ぜいの人では、それが何になりましょう」。一〇イエスは「人々をすわらせなさい」と言われた。その場所には草が多かつた。そこにすわった男の数は五千人ほどであつた。二そこで、イエスはパンを取り、感謝してから、すわっている人々に分け与え、また、さかなをも同様にして、彼らの望むだけ分け与えられた。三人々がじゅうぶんに食べたのち、イエスは弟子たちに言われた、「少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい」。三そこで彼らが集める

と、五つの大麦のパンを食べて残つたパンくずは、十二のかごにいっぱいになった。四人々はイエスのなさつたこのしるしを見て、「ほんとうに、この人こそ世にきたるべき預言者である」と言つた。五イエスは人々がきて、自分をとらえて王にしようとしていると知つて、ただひとり、また山に退かれた。六夕方になつたとき、弟子たちは海べに下り、七舟に乗つて海を渡り、向こう岸のカペナウムに行きかけた。すでに暗くなつていたのに、イエスはまだ彼らのところにおいでにならなかつた。八その上、強い風が吹いてきて、海は荒れ出した。九四、五十丁こぎ出したとき、イエスが海の上を歩いて舟に近づいてこられるのを見て、彼らは恐れた。一〇すると、イエスは彼らに言われた、「わたしだ、恐れることはない」。三そこで、彼らは喜んでイエスを舟に迎えようとした。すると舟は、すぐ、彼らが行こうとしていた地に着いた。三その翌日、海の向こう岸に立つていた群衆は、そこに小舟が一そうしかなく、またイエスは弟子たちと一緒に小舟にお乗りにならず、ただ弟子たちだけが船出したのを見た。三しかし、数そうの小舟がテベリヤからきて、主が感謝されたのちパンを人々に食べさせた場所に近づいた。四群衆は、イエスも弟子たちもそこにいないと知つて、それらの小舟に乗り、イエスをたずねてカペナウムに行った。五そして、海の向こう岸でイエスに出

会ったので言った、「先生、いつ、ここにおいでになったのですか」。二六イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言っておく。あなたがたがわたしを尋ねてきてゐるのは、しるしを見たためではなく、パンを食べて満腹したからである。二七朽ちる食物のためではなく、永遠の命に至る朽ちない食物のために働くがよい。これは人の子があなたがたに与えるものである。父なる神は、人の子にそれをゆだねられたのである」。二八そこで、彼らはイエスに言った、「神のわざを行うために、わたしたちは何をしたらよいでしょうか」。二九イエスは彼らに答えて言われた、「神がつかわされた者を信じる事が、神のわざである」。三〇彼らはイエスに言った、「わたしたちが見てあなたを信じるために、どんなしるしを行って下さいますか。どんなことをして下さいますか。三一わたしたちの先祖は荒野でマナを食べました。それは『天よりのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてあるとおりです」。三二そこでイエスは彼らに言われた、「よくよく言うておく。天からのパンをあなたがたに与えたのは、モーセではない。天からのまことのパンをあなたがたに与えるのは、わたしの父なのである。三三神のパンは、天から下ってきて、この世に命を与えるものである。三四彼らはイエスに言った、「主よ、そのパンをいつもわたしたちに下さい」。三五イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、

わたしを信じる者は決してかわくことがない。三六しかし、あなたがたに言ったが、あなたがたはわたしを見たのに信じようとはしない。三七父がわたしに与えて下さる者は皆、わたしに来るであろう。そして、わたしに来る者を決して拒みはしない。三八わたしが天から下ってきたのは、自分のこのころのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである。三九わたしをつかわされたかたのみこころは、わたしに与えて下さった者を、わたしがひとりも失わずに、終りの日によみがえらせることである。四〇わたしの父のみこころは、子を見て信じる者が、ことごとく永遠の命を得ることなのである。そして、わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう」。

四一ユダヤ人らは、イエスが「わたしは天から下ってきたパンである」と言われたので、イエスについてつぶやき始めた。四二そして言った、「これはヨセフの子イエスではないか。わたしたちはその父母を知っているではないか。わたしは天から下ってきたと、どうして今いふのか」。四三イエスは彼らに答えて言われた、「互につぶやいてはいけない。四四わたしをつかわされた父が引きよせて下さらなければ、だれもわたしに来ることはできない。わたしは、その人々を終りの日によみがえらせるであろう。四五預言者の書に、『彼らはみな神に教えられるであろう』と書いてある。父から聞いて学んだ者は、みなわた

しに来るのである。四六 神から出た者のほかに、だれかが父を見たのではない。その者だけが父を見たのである。四七 よくよくあなたがたに言っておく。信じる者には永遠の命がある。四八 わたしは命のパンである。四九 あなたがたの先祖は荒野でマナを食べたが、死んでしまった。五〇 しかし、天から下ってきたパンを食べる人は、決して死ぬことはない。五一 わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしと与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である。

五二 そこで、ユダヤ人らが互に論じて言った、「この人はどうして、自分の肉をわたしたちに与えて食べさせることができようか」。五三 イエスは彼らに言われた、「よくよく言っておく。人の子の肉を食べず、また、その血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない。五四 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう。五五 わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物である。五六 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる。五七 生きている父がわたしをつかわされ、また、わたしが父によって生きていくように、わたしを食べる者もわたしによって生きていくであろう。五八 天から下ってきたパンは、先祖たちが食べたが死んでしまったようなものではない。このパン

を食べる者は、いつまでも生きるであろう。五九 これらのことは、イエスがカペナウムの会堂で教えておられたときに言われたものである。

六〇 弟子たちのうちの多くの者は、これを聞いて言った、「これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか」。六一 しかしイエスは、弟子たちがそのことでつぶやいているのを見破って、彼らに言われた、「このことがあなたがたのつまりずきになるのか。六二 それでは、もし人の子が前にいた所に上るのを見たら、どうなるのか。六三 人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。六四 しかし、あなたがたの中には信じない者がいる」。六五 イエスは、初めから、だれが信じないか、まただれが彼を裏切るかを知っておられたのである。六六 そしてイエスは言われた、「それだから、父が与えて下さった者でなければ、わたしに来ることはできないと、言ったのである」。

六七 それ以来、多くの弟子たちは去って行って、もはやイエスと行動を共にしなかった。六八 そこでイエスは十二弟子に言われた、「あなたがたも去ろうとするのか」。六九 シモン・ペテロが答えた、「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましよう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。七〇 わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています」。七一 イエスは彼らに答

えられた、「あなたがた十二人を選んだのは、わたしではなかったか。それなのに、あなたがたのうちのひとりには悪魔である」。七これは、イスカリオテのシモンの子ユダをさして言われたのである。このユダは、十二弟子のひとりでありながら、イエスを裏切ろうとしていた。

第七章

一そののち、イエスはガリラヤを巡回

しておられた。ユダヤ人たちが自分を殺そうとしていたので、ユダヤを巡回しようとはされなかった。二時に、ユダヤ人の仮庵の祭が近づいていた。三そこで、イエスの兄弟たちがイエスに言った、「あなたがしておられるわざを弟子たちにも見せるために、ここを去りユダヤに行つてはいかがです。四自分を公けにあらわそうと思つてゐる人で、隠れて仕事をするものはありません。あなたがこれらのことをするからには、自分をはつきりと世にあらわしなさい。五こう言つたのは、兄弟たちもイエスを信じていなかったからである。六そこでイエスは彼らに言われた、「わたしの時はまだきていない。しかし、あなたがたの時はいつも備わつてゐる。七世はあなたがたを憎み得ないが、わたしを憎んでゐる。わたしが世のおこないの悪いことを、あかししてゐるからである。八あなたがたこそ祭に行きなさい。わたしはこの祭には行かない。わたしの時はまだ満ちていないから。九彼らにこう言つて、イエスはガリラヤにとどまつておられた。一〇しかし、兄弟たちが祭に行つたあとで、イエスも人

目にたたぬように、ひそかに行かれた。二ユダヤ人らは祭の時に、「あの人はどこにいるのか」と言つて、イエスを捜してゐた。三群衆の中に、イエスについてゐるいとうわさが立つた。ある人々は、「あれはよい人だ」と言ひ、他の人々は、「いや、あれは群衆を惑わしてゐる」と言つた。四しかし、ユダヤ人らを恐れて、イエスのことを公然と口にする者はいなかった。

五祭も半ばになつてから、イエスは宮に上つて教え始められた。六すると、ユダヤ人たちは驚いて言つた、「この人は学問をしたこともないのに、どうして律法の知識をもつてゐるのだらう。七そこでイエスは彼らに答えて言われた、「わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。八神のみこころを行おうと思ふ者であれば、だれでも、わたしの語つてゐるこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであらう。九自分から出たことを語る者は、自分の栄光を求めるが、自分をつかわされたかたの栄光を求める者は真実であつて、その人の内には偽りが無い。一〇モーセはあなたがたに律法を与えたではないか。それなのに、あなたがたのうちには、その律法を行ふ者がひとりもない。あなたがたは、なぜわたしを殺そうと思つてゐるのか。二群衆は答えた、「あなたは悪霊に取りつかれてゐる。だれがあなたを殺そうと思つてゐるものか。三イエスは彼らに答えて言われた、「わた

しが一つのわざをしたところ、あなたがたは皆それを見て驚いている。三 モーセはあなたがたに割礼を命じたので、(これは、実は、モーセから始まったのではなく、先祖たちから始まったものである) あなたがたは安息日にも人に割礼を施している。三もし、モーセの律法が破られないように、安息日であつても割礼を受けるのなら、安息日に人の全身を丈夫にしてやうかといつて、どうして、そんなにおこるのか。二四うわべで人をさばかないで、正しいさばきをするがよい」。

二五さて、エルサレムのある人たちが言った、「この人は人々が殺そうと思つてゐる者ではないか。二六見よ、彼は公然と語つてゐるのに、人々はこれに対して何も言わない。役人たちは、この人がキリストであることを、ほんとうに知つてゐるのではなからうか。二七わたしたちはこの人がどこからきたのか知つてゐる。しかし、キリストが現れる時には、どこから来るのか知つてゐる者は、ひとりもない」。二八イエスは宮の内で教えながら、叫んで言われた、「あなたがたは、わたしを知つており、わたしは自分からきたのではない。わたしをつかわされたかたは眞実であるが、あなたがたは、そのかたを知らない。二九わたしは、そのかたを知つてゐる。わたしはそのかたのもとからきた者で、そのかたがわたしをつかわされたのである」。三〇そこで人々はイエスを捕えようと計つた

が、だれひとり手をかける者はなかつた。イエスの時が、まだきていなかつたからである。三しかし、群衆の中の多くの者が、イエスを信じて言つた、「キリストがきても、この人が行つたよりも多くのしるしを行うだらうか」。

三二群衆がイエスについてこのやうなうわさをしてゐるのを、パリサイ人たちは耳にした。そこで、祭司長たちやパリサイ人たちは、イエスを捕えようとして、下役どもをつかわした。三三イエスは言われた、「今しばらくの間、わたしはあなたがたと一緒にいて、それから、わたしをおつかわしになつたかたのみもとに行く。四あなたがたはわたしを捜すであらうが、見つけることはできない。そしてわたしのゐる所に、あなたがたは来ることができない」。三五そこでユダヤ人たちは互に言つた、「わたしたちが見つけることができないというのは、どこへ行かうとしてゐるのだらう。ギリシヤ人の中に離散してゐる人たちのところにでも行つて、ギリシヤ人を教えようというのだらうか。三六また、『わたしを捜すが、見つかることはできない。そしてわたしのゐる所には来ることができないだらう』と言つたその言葉は、どういう意味だらう」。

三七祭の終りの大事な日に、イエスは立つて、叫んで言われた、「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。三八わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となつて流れ出るであらう」。

う。三九 これは、イエスを信じる人々が受けようとして
いる御霊をさして言われたのである。すなわち、イエス
はまだ栄光を受けておられなかったもので、御霊がまだ
下っていないのである。四〇 群衆のある者がこれらの
言葉を聞いて、「このかたは、ほんとうに、あの預言者で
ある」と言い、四一 ほかの人たちは「このかたはキリスト
である」と言い、また、ある人々は、「キリストはまさか、
ガリラヤからは出てこないだろう。四二 キリストは、ダビ
デの子孫から、またダビデのいたベツレヘムの村から出
ると、聖書に書いてあるではないか」と言った。四三 こう
して、群衆の間にイエスのことで分争が生じた。四四 彼ら
のうちの有人々々は、イエスを捕えようと思ったが、だ
れひとり手をかける者はなかった。
四五 さて、下役どもが祭司長たちやパリサイ人たちのと
ころに帰ってきたので、彼らはその下役どもに言った、
「なぜ、あの人を連れてこなかったのか」。四六 下役どもは
答えた、「この人の語るように語った者は、これまでにあ
りませんでした」。四七 パリサイ人たちが彼らに答えた、
「あなたがたまでが、だまされているのではないか。四八 役
人たちやパリサイ人たちの中で、ひとりでも彼を信じた
者があっただろうか。四九 律法をわきまえないこの群衆
は、のろわれている」。五〇 彼らの中のひとりで、以前に
イエスに会いにきたことのあるニコデモが、彼らに言っ
た、五二 わたしたちの律法によれば、まずその人の言い

分を聞き、その人のしたことを知った上でなければ、さ
ばくことをしないのではないか。五三 彼らは答えて言っ
た、「あなたもガリラヤ出なのか。よく調べてみなさい、
ガリラヤからは預言者が出るものではないことが、わか
るだろう」。

〔五三〕そして、人々はおのおの家に帰って行った。

第八章 イエスはオリブ山に行かれた。二 朝早

くまた宮にはいられると、人々が皆みもとに集まってきたので、イエスはすわって彼らを教えておられた。三
すると、律法学者たちやパリサイ人たちが、姦淫をしてい
る時につかまえられた女をひっぱってきて、中に立たせ
た上、イエスに言った、四 先生、この女は姦淫の場で
つかまえられました。五 モーセは律法の中で、こういう
女を石で打ち殺せと命じましたが、あなたはどう思いま
すか。六 彼らがそう言ったのは、イエスをためして、訴
える口実を得るためであった。しかし、イエスは身を
かめて、指で地面に何か書いておられた。七 彼らが問
い続けるので、イエスは身を起して彼らに言われた、「あな
たがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけ
るがよい」。八 そしてまた身をかめて、地面に物を書き
つづけられた。九 これを聞くと、彼らは年寄から始めて、
ひとりひとり出て行き、ついに、イエスだけになり、女
は中にいたまま残された。一〇 そこでイエスは身を起して
女に言われた、「女よ、みんなはどこにいるか。あなた

を罰する者はなかったのか。二女は言った、「主よ、だれもごさいません」。イエスは言われた、「わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように」。

三イエスは、また人々に語ってこう言われた、「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであらう」。四するとパリサイ人たちがイエスに言った、「あなたは、自分のことをあかししている。あなたのあかしは真実ではない」。五イエスは彼らに答えて言われた、「たとい、わたしが自分のことをあかししても、わたしのあかしは真実である。それは、わたしがどこからきたのか、また、どこへ行くのかを知っているからである。しかし、あなたがたは、わたしがどこからきて、どこへ行くのかを知らない。六あなたがたは肉によって人をさばくが、わたしはだれもさばかない。七しかし、もしわたしがさばくとすれば、わたしのさばきは正しい。なぜなら、わたしはひとりではなく、わたしをつかわされたかたが、わたしと一緒にだからである。八あなたがたの律法には、ふたりによる証言は真実だと、書いてある。九わたし自身のことをあかしするのは、わたしであるし、わたしをつかわされた父も、わたしのことをあかしして下さるのである。一〇すると、彼らはイエスに言った、「あなたの父はどこにいるのか」。イエスは答えられた、「あなたがたは、わたしをもわたし

の父をも知っていない。もし、あなたがたがわたしを知っていたなら、わたしの父をも知っていたであらう。一〇イエスが宮の内であつた時、これらの言葉をいせん箱のそばで語られたのであるが、イエスの時がまだきていなかったのだ、だれも捕える者がなかった。

三さて、また彼らに言われた、「わたしは去って行く。あなたがたはわたしを捜し求めるであらう。そして自分の罪のうちに死ぬであらう。わたしの行く所には、あなたがたは来ることができない」。三そこでユダヤ人たちは言った、「わたしの行く所に、あなたがたは来ることができないと、言ったのは、あるいは自殺でもしようとするつもりか」。四イエスは彼らに言われた、「あなたがたは下から出た者だが、わたしは上からきた者である。あなたがたはこの世の者であるが、わたしはこの世の者ではない。五だからわたしは、あなたがたは自分の罪のうちに死ぬであらうと、言ったのである。もしわたしがそういう者であることをあなたがたが信じなければ、罪のうちに死ぬことになるからである。六そこで彼らはイエスに言った、「あなたは、いったい、どういうかたですか」。イエスは彼らに言われた、「わたしがどういう者であるかは、初めからあなたがたに言っているではないか。七あなたがたについて、わたしの言うべきこと、さばくべきことが、たくさんある。しかし、わたしをつかわされたかたは真実なかたである。わたしは、そのかた

から聞いたまを世にむかつて語るのである」。^{二七} 彼らは、イエスが父について話しておられたことを悟らなかつた。^{二八} そこでイエスは言われた、「あなたがたが人の子を上げてしまった後はじめて、わたしがそういう者であること、また、わたしは自分からは何もせず、ただ父が教えて下さったまを話していたことが、わかつてくるであろう。^{二九} わたしをつかわされたかたは、わたしと一緒におられる。わたしは、いつも神のみところになさうことをしているから、わたしをひとり置きざりになさることはしない」。^{三〇} これらのことを語られたところ、多くの人々がイエスを信じた。

^{三一} イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた、「もしわたしの言葉のうちにとどまつておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。^{三二} また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。^{三三} そこで、彼らはイエスに言った、「わたしたちはアブラハムの子孫であつて、人の奴隷になつたことなどは、一度もない。どうして、あなたがたに自由を得させるであろうと、言われるのか」。^{三四} イエスは彼らに答えられた、「よくよくあなたがたに言つておく。すべて罪を犯す者は罪の奴隷である。^{三五} そして、奴隷はいつまでも家にいる者ではない。しかし、子はいつまでもいる。^{三六} だから、もし子があなたがたに自由を得させるならば、あなたがたは、ほんとうに自由な者とな

るのである。^{三七} わたしは、あなたがたがアブラハムの子孫であることを知っている。それなのに、あなたがたはわたしを殺そうとしている。わたしの言葉が、あなたがたのうちに根をおろしていかないからである。^{三八} わたしはわたしの父のもとで見たことを語っているが、あなたがたは自分の父から聞いたことを行っている」。^{三九} 彼らはイエスに答えて言った、「わたしたちの父はアブラハムである」。^{四〇} イエスは彼らに言われた、「もしアブラハムの子であるなら、アブラハムのわざをするがよい」。^{四一} ところが今、神から聞いた真理をあなたがたに語ってきたこのわたしを、殺そうとしている。そんなことをアブラハムはしなかつた。^{四二} あなたがたは、あなたがたの父のわざを行つているのである」。^{四三} 彼らは言った、「わたしたちは、不品行の結果うまれた者ではない。わたしたちにはひとりの父がある。それは神である」。^{四四} イエスは彼らに言われた、「神があなたがたの父であるならば、あなたがたはわたしを愛するはずである。わたしは神から出た者、また神からきてゐる者であるからだ。わたしは自分からきたのではなく、神からつかわされたのである」。^{四五} どうしてあなたがたは、わたしの話すことがわからないのか。あなたがたが、わたしの言葉を悟ることができないからである。^{四六} あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であつて、その父の欲望どおりを行おうと思つてゐる。彼は初めから、人殺しであつて、真理に立

つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、いつも自分の本音をはいているのである。彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ。四三しかし、わたしが真理を語っているので、あなたがたはわたしを信じようとしなさい。四四あなたがたのうち、だれがわたしに罪があると責めうるのか。わたしは真理を語っているのに、なぜあなたがたは、わたしを信じないのか。四五神からきた者は神の言葉に聞き従うが、あなたがたが聞き従わないのは、神からきた者でないからである」。

四六ユダヤ人たちはイエスに答えて言った、「あなたはサマリヤ人で、悪霊に取りつかれていると、わたしたちが言うのは、当然ではないか」。四七イエスは答えられた、「わたしは、悪霊に取りつかれているのではなくて、わたしの父を重んじているのだが、あなたがたはわたしを軽んじている。四八わたしは自分の栄光を求めてはいない。それを求めるかたが別にある。そのかたは、またさばくかたである。四九よくよく言うておく。もし人がわたしの言葉を守るならば、その人はいつまでも死を見ることがないであろう」。五〇ユダヤ人たちが言った、「あなたが悪霊に取りつかれていることが、今わかった。アブラハムは死に、預言者たちも死んでいる。それなのに、あなたは、わたしの言葉を守る者はいつまでも死を味わうことがないであろうと、言われる。五一あなたは、わたしたちの父アブラハムより偉いのだろうか。彼も死に、預言

者たちも死んだではないか。あなたは、いったい、自分をだれと思っているのか」。五二イエスは答えられた、「わたしはもし自分に栄光を帰するなら、わたしの栄光は、むなしきものである。わたしに栄光を与えるかたは、わたしの父であって、あなたがたが自分の神だと言っているのは、そのかたのことである。五三あなたがたはその神を知っていないが、わたしは知っている。もしわたしが神を知らないと言うならば、あなたがたと同じような偽り者であろう。しかし、わたしはそのかたを知り、その御言を守っている。五四あなたがたの父アブラハムは、わたしのこの日を見ようとして楽しんでゐた。そしてそれを見て喜んだ」。五五そこでユダヤ人たちはイエスに言った、「あなたはまだ五十にもならないのに、アブラハムを見たのか」。五六イエスは彼らに言われた、「よくよくあなたがたに言うておく。アブラハムの生れる前からわたしは、ゐるのである」。五七そこで彼らは石をとって、イエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、宮から出て行かれた。

第九章 イエスが道をとおっておられるとき、生れつきの盲人を見られた。二弟子たちはイエスに尋ねて言った、「先生、この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか」。三イエスは答えられた、「本人が罪を犯したのではなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神の

みわざが、彼の上に現れるためである。四 わたしたちは、わたしをつかわされたかたのわざを、昼の間にしなければならぬ。夜が来る。すると、だれも働けなくなる。五 わたしは、この世にいる間は、世の光である。六 イエスはそう言って、地につばきををし、そのつばきで、どろをつくり、そのどろを盲人の目に塗って言われた、七 シロアム（つかわされた者、の意）の池に行つて洗いなさい。そこで彼は行つて洗つた。そして見えるようになって、帰つて行つた。八 近所の人々や、彼がもと、こじきであつたのを見知つていた人々が言つた、「この人は、すわつてこじきをしていた者ではないか」。九 ある人々は「その人だ」と言い、他の人々は「いや、ただあの人に似ているだけだ」と言つた。しかし、本人は「わたしがそれだ」と言つた。一〇 そこで人々は彼に言つた、「では、おまえの目はどうしてあいたのか」。二 彼は答えた、「イエスというかたが、どろをつくつて、わたしの目に塗り、『シロアムに行つて洗え』と言われました。それで、行つて洗うと、見えるようになりました」。三人々は彼に言つた、「その人はどこにいるのか」。彼は「知りません」と答えた。三 人々は、もと盲人であつたこの人を、パリサイ人たちのところにつれて行つた。四 イエスがどろをつくつて彼の目をあけたのは、安息日であつた。五 パリサイ人たちもまた、「どうして見えるようになったのか」と彼に尋ねた。彼は答えた、「あのかたがわたしの目にどろを塗り、

わたしがそれを洗い、そして見えるようになりました。六 そこで、あるパリサイ人たちが言つた、「その人は神からきた人ではない。安息日を守っていないのだから」。しかし、ほかの人々は言つた、「罪のある人が、どうしてそのようなしるしを行うことができるか」。そして彼らの間に分争が生じた。七 そこで彼らは、もう一度この盲人に聞いた、「おまえの目をあけてくれたその人を、どう思うか」。八 預言者だと思ひます」と彼は言つた。九 エダヤ人たちは、彼がもと盲人であつたが見えるようになったことを、まだ信じなかつた。ついに彼らは、目が見えるようになったこの人の両親を呼んで、一〇 尋ねて言つた、「これが、生れつき盲人であつたと、おまえたちの言つてゐるむすこか。それではどうして、いま目が見えるのか」。二〇 両親は答えて言つた、「これがわたしどもが存じてゐること、また生れつき盲人であつたことはなつたのか、それは知りません。また、だれがその目をあけて下さつたのかも知りません。あれに聞いて下さい。あれはもうおとなですから、自分のことは自分で話せるでしょう」。二二 両親はエダヤ人たちを恐れていたので、こう答えたのである。それは、もしイエスをキリストと告白する者があれば、会堂から追い出すことに、エダヤ人たちが既に決めていたからである。二三 彼の両親が「おとなですから、あれに聞いて下さい」と言つたのは、

そのためであつた。

二四そこで彼らは、盲人であつた人をもう一度呼んで言った、「神に栄光を帰するがよい。あの人が罪人であることは、わたしたちにはわかつてゐる」。二五すると彼は言った、「あのかたが罪人であるかどうか、わたしは知りません。ただ一つのことだけ知つてゐます。わたしは盲であつたが、今は見えるということです」。二六そこで彼らは言った、「その人はおまえに何をしたのか。どんなにしておまえの目をあけたのか」。二七彼は答えた、「そのことはもう話してあげたのに、聞いてくれませんでした。なぜまた聞こうとするのですか。あなたがたも、あの人の弟子になりたいのですか」。二八そこで彼らは彼をののしつて言った、「おまえはあれの弟子だが、わたしたちはモーセの弟子だ。二九モーセに神が語られたということは知つてゐる。だが、あの人がどこからきた者か、わたしたちは知らぬ」。三〇そこで彼が答えて言った、「わたしの目をあけて下さつたのに、そのかたがどこからきたか、ご存じないとは、不思議千万です。三二わたしたちはこのことを知つてゐます。神は罪人の言うことはお聞きいれになりませんが、神を敬い、そのみこころを行う人の言うことは、聞きいれて下さいます。三三生れつき盲であつた者の目をあけた人があるということは、世界が始まつて以来、聞いたことがありません。三三もしあのかたが神からきた人でなかつたら、何一つできなかったはずで

す」。三四これを聞いて彼らは言った、「おまえは全く罪の中に生れてゐながら、わたしたちを教えようとするのか」。そして彼を外へ追い出した。

三五イエスは、その人が外へ追い出されたことを聞かれた。そして彼に會つて言われた、「あなたは人の子を信じるか」。三六彼は答えて言った、「主よ、それはどなたですか。そのかたを信じたいのですが」。三七イエスは彼に言われた、「あなたは、もうその人に會つてゐる。今あなたと話してゐるのが、その人である」。三八すると彼は、「主よ、信じます」と言つて、イエスを拝した。三九そこでイエスは言われた、「わたしがこの世にきたのは、さばくためである。すなわち、見えない人たちが見えるようになり、見える人たちが見えないようになるためである」。四〇そこにイエスと一緒にいたあるパリサイ人たちが、それを聞いてイエスに言った、「それでは、わたしたちも盲なのでしようか」。四二イエスは彼らに言われた、「もしあなたがたが盲人であつたなら、罪はなかつたであらう。しかし、今あなたがたが『見える』と言ひ張るところに、あなたがたの罪がある。

第一〇章 一よくよくあなたがたに言つておく。羊の囲いにはゐるのに、門からでなく、ほかの所からのりこえて来る者は、盗人であり、強盗である。二門からはゐる者は、羊の羊飼である。三門番は彼のために門を開き、羊は彼の声を聞く。そして彼は自分の羊の名をよ

んで連れ出す。四自分の羊をみな出してしまおうと、彼は羊の先頭に立って行く。羊はその声を知っているのだから、彼について行くのである。五ほかの人には、ついて行かないで逃げ去る。その人の声を知らないからである。六イエスは彼らにこの比喻を話されたが、彼らは自分たちにお話しになっているのが何のことだか、わからなかった。

七そこで、イエスはまた言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。わたしは羊の門である。八わたしよりも前にきた人は、みな盗人であり、強盗である。羊は彼らに聞き従わなかった。九わたしは門である。わたしをとおつてはいる者は救われ、また出入りし、牧草にありつくであろう。一〇盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにはかならない。わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。二わたしはよい羊飼である。よい羊飼は、羊のために命を捨てる。三羊飼ではなく、羊が自分のものでもない雇人は、おおかみが来るのを見ると、羊をすてて逃げ去る。そして、おおかみは羊を奪い、また追い散らす。四彼は雇人であつて、羊のことを心にかけていないからである。五わたしはよい羊飼であつて、わたしの羊を知り、わたしの羊はまた、わたしを知っている。六それはちょうど、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。そして、わたしは羊のために命を捨てるの

である。七わたしにはまた、この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、ひとりの羊飼となるであろう。八父は、わたしが自分の命を捨てるから、わたしを愛して下さるのである。命を捨てるのは、それを再び得るためである。九だれかが、わたしからそれを取り去るのではない。わたしが、自分からそれを捨てるのである。わたしには、それを捨てる力があり、またそれを受ける力もある。これはわたしの父から授かった定めである。」

一九これらの言葉を語られたため、ユダヤ人の間にまたも分争が生じた。二〇そのうちの多くの者が言った、「彼は悪霊に取りつかれて、気が狂っている。どうして、あなたがたはその言うことを聞くのか」。三他の人々は言った、「それは悪霊に取りつかれた者の言葉ではない。悪霊は盲人の目をあけることができようか」。

四そのころ、エルサレムで宮きよめの祭が行われた。時は冬であつた。五イエスは、宮の中にあるソロモンの廊を歩いておられた。六するとユダヤ人たちが、イエスをを取り囲んで言った、「いつまでわたしたちを不安のままにしておくのか。あなたがキリストであるなら、そうとばかり言っていただきたい」。七イエスは彼らに答えられた、「わたしは話したのだが、あなたがたは信じようとしな。わたしの父の名によってしているすべてのわ

だが、わたしのことをあかししている。二六あなたがたが信じないのは、わたしの羊でないからである。三七わたしの羊はわたしの声に聞き従う。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る。二八わたしは、彼らに永遠の命を与える。だから、彼らはいつまでも滅びることがなく、また、彼らをわたしの手から奪い去る者はない。二九わたしの父がわたしに下さったものは、すべてにまさるものである。そしてだれも父のみ手から、それを奪い取ることはできない。三〇わたしと父とは一つである。三一そこでユダヤ人たちは、イエスを打ち殺そうとして、また石を取りあげた。三二するとイエスは彼らに答えられた、「わたしは、父による多くのよいわざを、あなたがたに示した。その中のどのわざのために、わたしを石で打ち殺そうとするのか」。三三ユダヤ人たちは答えた、「あなたを石で殺そうとするのは、よいわざをしたからではなく、神を汚したからである。また、あなたは人間であるのに、自分を神としているからである」。三四イエスは彼らに答えられた、「あなたがたの律法に、『わたしは言う、あなたがたは神々である』と書いてあるではないか。三五神の言を託された人々が、神々といわれておるとすれば、(そして聖書の言は、すたることがあり得ない) 三六父が聖別して、世につかわされた者が、『わたしは神の子である』と言ったからとて、どうして『あなたは神を汚す者だ』と言うのか。三七もしわたしが父のわざを行わない

とすれば、わたしを信じなくてもよい。三八しかし、もし行っているなら、たとえわたしを信じなくても、わたしのわざを信じるがよい。そうすれば、父がわたしにおり、また、わたしが父におることを知って悟るであろう。三九そこで、彼らはまたイエスを捕えようとしたが、イエスは彼らの手をのがれて、去って行かれた。四〇さて、イエスはまたヨルダンの向こう岸、すなわちヨハネが初めにバプテスマを授けていた所に行き、そこに滞在しておられた。四一多くの人々がイエスのところに来て、互に言った、「ヨハネはなんのしるしも行わなかったが、ヨハネがこのかたについて言ったことは、皆ほんとうであった」。四二そして、そこで多くの者がイエスを信じた。

第一章

一さて、ひとりの病人がいた。ラザロといい、マリヤとその姉妹マルタの村ベタニヤの人であった。二このマリヤは主に香油をぬり、自分の髪の毛で、主の足をふいた女であって、病氣であったのは、彼女の兄弟ラザロであった。三姉妹たちは人をイエスのものにつかわして、「主よ、ただ今、あなたが愛しておられる者が病氣をしています」と言わせた。四イエスはそれを聞いて言われた、「この病氣は死ぬほどのものではない。それは神の栄光のため、また、神の子がそれによって栄光を受けるためのものである」。五イエスは、マルタとその姉妹とラザロとを愛しておら

れた。六ラザロが病氣であることを聞いてから、なおぶつか、そのおられた所に滞在された。七それから弟子たちには、「もう一度ユダヤに行こう」と言われた。八弟子たちは言った、「先生、ユダヤ人らが、さきほどもあなたを石で殺そうとしていましたのに、またそこに行かれるのですか」。九イエスは答えられた、「一日には十二時間あるではないか。昼間あるけば、人はつまづくことはない。この世の光を見ているからである。一〇しかし、夜あるけば、つまづく。その人のうちに、光がないからである」。二そう言われたが、それからまた、彼らに言われた、「わたしたちの友ラザロが眠っている。わたしは彼を起しに行く」。三すると弟子たちは言った、「主よ、眠っているのですしたら、助かるでしょう」。四イエスはラザロが死んだことを言われたのであるが、弟子たちは、眠って休んでいることを言われたのだと思った。五するとイエスは、あからさまに彼らに言われた、「ラザロは死んだのだ。一五そして、わたしがそこにいあわせなかったことを、あなたがたのために喜ぶ。それは、あなたがたが信じるようになるためである。では、彼のところに行こう」。二六するとデドモと呼ばれているトマスが、仲間の弟子たちに言った、「わたしたちも行つて、先生と一緒に死のうではないか」。

二七さて、イエスが行つてごらんになると、ラザロはすでに四日間も墓の中に置かれていた。二八ベタニヤはエル

サレムに近く、二十五丁ばかり離れたところにあった。二九大ぜいのユダヤ人が、その兄弟のことで、マルタとマリヤとを慰めようとしてきていた。三〇マルタはイエスがこられたと聞いて、出迎えに行つたが、マリヤは家ですわっていた。三マルタはイエスに言った、「主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう。三しかし、あなたがどんなことをお願いになつても、神はかなえて下さることを、わたしは今でも存じています」。三三イエスはマルタに言われた、「あなたの兄弟はよみがえるであらう」。三四マルタは言った、「終りの日のよみがえりの時よみがえることは、存じています」。三五イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとひ死んでも生きる。三六また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか」。三七マルタはイエスに言った、「主よ、信じます。あなたがこの世にきたるべきキリスト、神の御子であると信じております」。三八マルタはこう言つてから、帰つて姉妹のマリヤを呼び、「先生がおいでになつて、あなたを呼んでおられます」と小声で言つた。三九これを聞いたマリヤはすぐ立ち上がつて、イエスのもとに行つた。四〇イエスはまだ村に、はいつてこられず、マルタがお迎えしたその場所におられた。四一マリヤと一緒に家にいて彼女を慰めていたユダヤ人たちは、マリヤが急いで立ち上がつて出て行く

のを見て、彼女は墓に泣きに行くのであらうと思ひ、そのあとからついて行つた。三マリヤは、イエスのおられる所に行つてお目にかかり、その足もとにひれ伏して言つた、「主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう。三イエスは、彼女が泣き、また、彼女と一緒にきたユダヤ人たちも泣いてゐるのをごらんになり、激しく感動し、また心を騒がせ、そして言われた、三「彼をどこに置いたのか」。彼らはイエスに言つた、「主よ、きて、ごらん下さい」。三イエスは涙を流された。三六するとユダヤ人たちは言つた、「ああ、なんと彼を愛しておられたことか。三七しかし、彼らのある人たちは言つた、「あの盲人の目をあけたこの人でも、ラザロを死なせないようには、できなかつたのか」。三八イエスはまた激しく感動して、墓にはいられた。それは洞穴であつて、そこに石がはめてあつた。三九イエスは言われた、「石を取りのけなさい」。死んだラザロの姉妹マルタが言つた、「主よ、もう臭くなつております。四〇日もたつていますから」。四〇イエスは彼女に言われた、「もし信じるなら神の栄光を見るであらうと、あなたに言つたではないか。四一人々は石を取りのけた。すると、イエスは目を天にむけて言われた、「父よ、わたしの願いをお聞き下さつたことを感謝します。四あなたがいつてもわたしの願いを聞きいれて下さることを、よく知っています。しかし、こう申しますのは、そばに立っている

人々に、あなたがわたしをつかわされたことを、信じさせるためであります」。四三こう言いながら、大声で「ラザロよ、出てきなさい」と呼ばれた。四四すると、死人は手足を布でまかれ、顔も顔おいで包まれたまま、出てきた。イエスは人々に言われた、「彼をほどこいてやつて、歸らせなさい」。四五マリヤのところにきて、イエスのなさつたことを見、多くのユダヤ人たちは、イエスを信じた。四六しかし、そのうちの数人がパリサイ人たちのところに行つて、イエスのされたことを告げた。四七そこで、祭司長たちとパリサイ人たちは、議會を召集して言つた、「この人が多くのしるしを行つてゐるのに、お互は何をしてゐるのだ。四八もしこのままにしておけば、みんなが彼を信じるようになるだらう。そのうえ、ローマ人がやつてきて、わたしたちの土地も人民も奪つてしまふであらう」。四九彼らのうちのひとりで、その年の大祭司であつたカヤパが、彼らに言つた、「あなたがたは、何もわかつていないし、五〇ひとりの人が人民に代つて死んで、全国人民が滅びないようになるのがわたしたちにとって得だといふことを、考えてもいない」。五一このことは彼が自分から言つたのではない。彼はこの年の大祭司であつたので、預言をして、イエスが国民のために、五二ただ国民のためだけに、死んで散在してゐる神の子らを一つに集めるために、死ぬことになつてゐると、言つたのである。五三彼

らはこの日からイエスを殺そうと相談した。五番そのためイエスは、もはや公然とユダヤ人の間を歩かないで、そこを出て、荒野に近い地方のエフライムという町に行かれ、そこに弟子たちと一緒に滞在しておられた。

五五さて、ユダヤ人の過越の祭が近づいたので、多くの人は身をきよめるために、祭の前に、地方からエルサレムへ上った。五六人々はイエスを捜し求め、宮の庭に立つて互に言った、「あなたがたはどう思うか。イエスはこの祭にこないのだろうか」。五七祭司長たちとパリサイ人たちは、イエスを捕えようとして、そのいどころを知っている者があれば申し出よ、という指令を出していた。

第一 二章 過越の祭の六日まえに、イエスはベタ

ニヤに行かれた。そこは、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロのいた所である。ニイエスのためにそこで夕食の用意がされ、マルタは給仕をしていた。イエスと一緒に食卓についていた者のうちに、ラザロも加わっていた。三その時、マリヤは高価で純粋なナルドの香油一斤を持ってきて、イエスの足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいた。すると、香油のかおりが家にいっぱいになった。四弟子のひとりで、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダが言った、五「なぜこの香油を三百デナリに売って、貧しい人たちに、施さなかったのか」。六彼がこう言ったのは、貧しい人たちに対する思いやりがあったからではなく、自分が盗人であり、財布を預かっ

ていて、その中身をこまかしていたからであった。七イエスは言われた、「この女のするままにさせておきなさい。わたしの葬りの日のために、それをとっておいたのだから。八貧しい人たちはいつもあなたがたと共にいるが、わたしはいつも共にいるわけではない」。九大ぜいのユダヤ人たちが、そこにイエスのおられるのを知って、押しよせてきた。それはイエスに会うためだけではなく、イエスが死人のなかから、よみがえらせたラザロを見るためでもあった。一〇そこで祭司長たちは、ラザロも殺そうと相談した。二それは、ラザロのことで、多くのユダヤ人が彼らを離れ去って、イエスを信じるに至ったからである。

三その翌日、祭にきていた大ぜいの群衆は、イエスがエルサレムにこられると聞いて、三三しゅろの枝を手にとり、迎えに出て行った。そして叫んだ、

「ホサナ、
主の御名によつてきたる者に祝福あれ、
イスラエルの王に」。

四イエスは、ろばの子を見つけて、その上に乗られた。それは

「五」シオンの娘よ、恐れるな。

見よ、あなたの王が

ろばの子に乗っておいでになる」
と書いてあるとおりであった。一六弟子たちは初めにはこ

のことを悟らなかつたが、イエスが栄光を受けられた時に、このことがイエスについて書かれてあり、またそのとおりに、人々がイエスに対してしたのだということを思い起した。二七また、イエスがラザロを墓から呼び出して、死人の中からよみがえらせたとき、イエスと一緒にいた群衆が、そのあかしをした。二八群衆がイエスを迎えるに出たのは、イエスがこのようなしるしを行われたことを、聞いていたからである。二九そこで、パリサイ人たちは互に言った、「何をしてもむだだった。世をあげて彼のあとを追って行つたではないか」。

三〇祭で礼拝するために上つてきた人々のうちに、数人のギリシヤ人がいた。三一彼らはガラヤのベツサイダ出であるピリポのところに来て、「君よ、イエスにお目にかかりたいのですが」と言つて頼んだ。三二ピリポはアンデレのところに行つてそのことを話し、アンデレとピリポは、イエスのもとに行つて伝えた。三三すると、イエスは答えて言われた、「人の子が栄光を受ける時がきた。三四よくあなたがたに言つておく。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。三五自分の命を愛する者はそれを失ひ、この世で自分の命を憎む者は、それを保つて永遠の命に至るであらう。三六もしわたしに仕えようとする人があれば、その人はわたしに従つて来るがよい。そうすれば、わたしのおる所に、わたし

に仕える者もまた、おるであらう。もしわたしに仕えようとする人があれば、その人を父は重んじて下さるであらう。三七今わたしは心が騒いでいる。わたしはなんと言おうか。父よ、この時からわたしをお救い下さい。しかし、わたしはこのために、この時に至つたのです。三八父よ、み名があがめられますように」。すると天から声があつた、「わたしはすでに栄光をあらわした。そして、更にそれをあらわすであらう」。二九すると、そこに立つていた群衆がこれ聞いて、「雷がなつたのだ」と言い、ほかの人たちは、「御使が彼に話しかけたのだ」と言つた。三〇イエスは答えて言われた、「この声があつたのは、わたしのためではなく、あなたがたのためである。三十一今はこの世がさばかれる時である。今こそこの世の君は追い出されるであらう。三十二そして、わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであらう」。三三イエスはこう言つて、自分がどんな死に方で死のうとしていたかを、お示しになつたのである。三四すると群衆はイエスにむかつて言つた、「わたしたちは律法によつて、キリストはいつまでも生きておいでになるのだ」と聞いていました。それなのに、どうして人の子は上げられねばならないと、言われるのですか。その人の子とは、だれのことですか」。三五そこでイエスは彼らに言われた、「もうしばらくの間、光はあなたがたと一緒にここにゐる。光がある間に歩いて、やみに追いつか

れないようにしなさい。やみの中を歩く者は、自分がどこへ行くのかわかっていない。三六 光のある間に、光の子となるために、光を信じなさい」。

イエスはこれらのことを話してから、そこを立ち去って、彼らから身をお隠しになった。三七 このように多くのしるしを彼らの前でなさったが、彼らはイエスを信じなかった。三八 それは、預言者イザヤの次の言葉が成就するためである、「主よ、わたしたちの説くところを、だれが信じたでしょうか。また、主のみ腕はだれに示されたでしょうか。三九 こういうわけで、彼らは信じることができなかつた。イザヤはまた、こうも言った、四〇 神は彼らの目をくらまし、心をかたくなになさった。それは、彼らが目で見ず、心で悟らず、悔い改めていやされることとがないたためである」。四一 イザヤがこう言ったのは、イエスの栄光を見たからであつて、イエスのことを語つたのである。四二 しかし、役人たちの中にも、イエスを信じた者が多かつたが、パリサイ人をはばかつて、告白はしなかつた。会堂から追い出されるのを恐れていたのである。四三 彼らは神のほまれよりも、人のほまれを好んだからである。

四四 イエスは大声で言われた、「わたしを信じる者は、わたしを信じるのではなく、わたしをつかわされたかたを信じるのであり、四五 また、わたしを見る者は、わたしをつかわされたかたを見るのである。四六 わたしは光として

この世にきた。それは、わたしを信じる者が、やみのうちにとどまらないようになるためである。四七 たとい、わたしの言うことを聞いてそれを守らない人があつても、わたしはその人をさばかない。わたしがきたのは、この世をさばくためではなく、この世を救うためである。四八 わたしを捨てて、わたしの言葉を受けいれない人には、その人をさばくものがある。わたしの語つたその言葉が、終りの日にその人をさばくであろう。四九 わたしは自分から語つたのではなく、わたしをつかわされた父ご自身が、わたしの言うべきこと、語るべきことをお命じになつたのである。五〇 わたしは、この命令が永遠の命であることを知っている。それゆえに、わたしが語っていることは、わたしの父がわたしに仰せになつたことを、そのまゝ語っているのである」。

第一三章 一 過越の祭の前に、イエスは、この世を去つて父のみもとに行くべき自分の時がきたことを知り、世にいる自分の者たちを愛して、彼らを最後まで愛し通された。二 夕食のとき、悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうとする思いを入れていたが、三 イエスは、父がすべてのものを自分の手にお与えになつたこと、また、自分は神から出てきて、神にかえらうとしてゐることを思い、四 夕食の席から立ち上がつて、上着を脱ぎ、手ぬぐいをとって腰に巻き、五 それから水をたらいに入れて、弟子たちの足を洗

い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた。六こうして、シモン・ペテロの番になった。すると彼はイエスに、「主よ、あなたがわたしの足をお洗になるのですか」と言った。七イエスは彼に答えて言われた、「わたしのしていることは今あなたにはわからないが、あとでわかるようになるだろう。八ペテロはイエスに言った、「わたしの足を決して洗わないで下さい」。イエスは彼に答えられた、「もしわたしがあなたの足を洗わないなら、あなたはわたしとなんの係わりもなくなる」。九シモン・ペテロはイエスに言った、「主よ、では、足だけではなく、どうぞ、手も頭も」。一〇イエスは彼に言われた、「すでにからだを洗った者は、足のほかは洗う必要がない。全身がきれいなものだから。あなたがたはきれいなもの。しかし、みんながそうなのではない。二イエスは自分を裏切る者を知らせておられた。それで、「みんながきれいなものではない」と言われたのである。

三こうして彼らの足を洗ってから、上着をつけ、ふたたび席にもどって、彼らに言われた、「わたしがあなたがたにしたことがわかるか。三あなたがたはわたしを教師、また主と呼んでいる。そう言うのは正しい。わたしはそのとおりである。四しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。五わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、

わたしは手本を示したのだ。六よくよくあなたがたに言っておく。僕はその主人にまさるものではなく、つかわされた者はつかわした者にまさるものではない。七もしこれらのことがわかっていて、それを行なうなら、あなたがたはさいわいである。八あなたがた全部の者について、こう言っているのではない。わたしは自分が選んだ人たちを知っている。しかし、『わたしのパンを食べている者が、わたしにむかってそのかかとをあげた』とある聖書は成就されなければならない。九そのことがまだ起らない今のうちに、あなたがたに言うしておく。いよいよ事が起ったとき、わたしがそれであることを、あなたがたが信じるためである。一〇よくよくあなたがたに言うしておく。わたしがつかわす者を受けいれる者は、わたしを受けいれるのである。わたしを受けいれる者は、わたしをつかわされたかたを、受けいれるのである。二イエスがこれらのことを言われた後、その心が騒ぎ、おごそかに言われた、「よくよくあなたがたに言うしておく。あなたがたのうちのひとりが、わたしを裏切るうと知っている。三弟子たちはだれのことを言われたのか察しかねて、互に顔を見合わせた。四弟子たちのひとりで、イエスの愛しておられた者が、み胸に近く席についていた。五そこで、シモン・ペテロは彼に合図をして言った、『だれのことをおっしゃったのか、知らせてくれ。六その弟子はそのままイエスの胸によりかかって、主よ、だ

「あれのことですか」と尋ねると、二六イエスは答えられた、「わたしが一きれの食物をひたして与える者が、それである」。そして、一きれの食物をひたしてとり上げ、シモンの子イスカリオテのユダにお与えになった。二七この一きれの食物を受けるやいなや、サタンがユダにはいった。そこでイエスは彼に言われた、「しようとしていることを、今すぐするがよい」。二八席を共にしていた者のうち、なぜユダにこう言われたのか、わかつていた者はひとりもなかった。二九ある人々は、ユダが金入れをあずかっていたので、イエスが彼に、「祭のために必要なものを買え」と言われたか、あるいは、貧しい者に何か施させようと思われたのだと思っていた。三〇ユダは一きれの食物を受けると、すぐに出て行った。時は夜であった。

三一さて、彼が出て行くと、イエスは言われた、「今や人の子は栄光を受けた。神もまた彼によって栄光をお受けになった。三二彼によって栄光をお受けになったのなら、神ご自身も彼に栄光をお授けになるであろう。すぐにもお授けになるであろう。三三子たちよ、わたしはまだしばらく、あなたがたと一緒にいる。あなたがたはわたしを捜すだろうが、すでにユダヤ人たちに言ったとおり、今あなたがたにも言う、『あなたがたはわたしの行く所に来ることはできない』。三四わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

い。三五互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」。

三六シモン・ペテロがイエスに言った、「主よ、どこへおいでになるのですか」。イエスは答えられた、「あなたがわたしの行くところに、今はついて来ることはできない。しかし、あとになってから、ついて来ることになるう」。三七ペテロはイエスに言った、「主よ、なぜ、今あなたについて行くことができないのですか。あなたのためには、命も捨てます」。三八イエスは答えられた、「わたしのために命を捨てると言うのか。よくよくあなたに言っておく。鶏が鳴く前に、あなたはわたしを三度知らないと言うであろう」。

第一 四章 「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。二わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのためには、場所を用意しに行くのだから。三そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのいる所にあなたがたもおらせるためである。四わたしがどこへ行くのか、その道はあなたがたにわかっている」。五トマスはイエスに言った、「主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちはわかりません。六どうしてその道がわかるでしょう」。

「イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のもとに行くことはできない。もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。しかし、今は父を知っており、またすでに父を見たのである」。ペトリボはイエスに言った、「主よ、わたしは父を示して下さい。そうして下さい、わたしは満足します」。イエスは彼に言われた、「ペトリボよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしに父を示してほしいと、言うのか。わたしは父におり、父がわたしにおられることをあなたは信じないのか。わたしがあなたがたに話している言葉は、自分から話しているのではない。父がわたしのうちにおられて、みわざをなさっているのである。わたしは父におり、父がわたしにおられることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、わざそのものによって信じなさい。三よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。三わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。四何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえて

あげよう。五もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。六わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。七それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。八わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない、あなたがたのところへ帰って来る。九もうしばらくしたら、世はもはやわたしを見なくなるだろう。しかし、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きるので、あなたがたも生きるからである。一〇その日には、わたしはわたしの父におり、あなたがたはわたしにおり、また、わたしがあなたがたにおることが、わかるであろう。三わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう。三イスカリオテでない方のエダがイエスに言った、「主よ、あなたが自身をわたしたちにあらわそうとして、世にはあらわそうとされないのはなぜですか」。三イエスは彼に答えて言われた、「もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであ

ろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行つて、その人と一緒に住むであろう。二四 わたしを愛さない者はわたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いてゐる言葉は、わたしの言葉ではなく、わたしをつかわされた父の言葉である。

二五 これらのことは、あなたがたと一緒にいた時、すでに語つたことである。二六 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によつてつかかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであらう。二七 わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。二八 『わたしは去つて行くが、またあなたがたのところへ歸つて来る』と、わたしが言つたのを、あなたがたは聞いてゐる。もしわたしを愛してゐるなら、わたしが父のもとに行くのを喜んでくれるであらう。父がわたしより大きいかたであるからである。二九 今わたしは、そのことが起らない先にあなたがたに語つた。それは、事が起つた時にあなたがたが信じるためである。三〇 わたしはもはや、あなたがたに、多くを語るまい。この世の君が来るからである。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない。三十一 しかし、わたしが父を愛してゐることを世が知るように、わたしは父がお命じになつたとおりのこと

とを行ふのである。立て。さあ、ここから出かけて行く。

第一五章 一 わたしはまことのおどろきの木、わたしの父は農夫である。二 わたしにつながつてゐる枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりぞぎ、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいになさるのである。三 あなたがたは、わたしが語つた言葉によつて既にきよくされてゐる。四 わたしにつながつてゐなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながつていよう。枝がぶどうの木につながつていなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながつていなければ実を結ぶことができない。五 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながつており、またわたしがその人とつながつておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。六 人がわたしにつながつていないならば、枝のように外に投げすてられて枯れる。人々はそれをかき集め、火に投げ入れて、焼いてしまうのである。七 あなたがたがわたしにつながつており、わたしの言葉があなたがたにとどまつてゐるならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであらう。八 あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによつて、わたしの父は栄

光をお受けになるであろう。父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにいるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにいるのと同じである。わたしはこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちに宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。

三 わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。三人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。四 あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。五 わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである。六 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。七 これらのことを命じるのは、あなたがたが互に愛し合うため

である。八 もしこの世があなたがたを憎むならば、あなたが

たよりも先にわたしを憎んだことを、知っておくがよい。九 もしあなたがたがこの世から出たものであったなら、この世は、あなたがたを自分のものとして愛したのである。しかし、あなたがたはこの世のものではない。かえって、わたしがあなたがたをこの世から選り出したのである。だから、この世はあなたがたを憎むのである。一〇 わたしがあなたがたに『僕はその主人にまさるものではない』と言ったことを、おぼえていなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害するであろう。また、もし彼らがわたしの言葉を守っていたなら、あなたがたの言葉をも守るであろう。三 彼らはわたしの名のゆえに、あなたがたに対してすべてそれらのことをするであろう。それは、わたしをつかわされたかたを彼らが知らないからである。三 もしわたしがきて彼らに語らなかつたならば、彼らは罪を犯さないのである。しかし今となつては、彼らには、その罪について言いのがれる道がない。三 わたしを憎む者は、わたしの父をも憎む。四 もし、ほかのだれもがしなかつたようなわざを、わたしが彼らの間でしなかつたならば、彼らは罪を犯さないのである。しかし事実、彼らはわたしとわたしの父を見て、憎んだのである。五 それは、『彼らは理由なしにわたしを憎んだ』と書いてある彼らの

律法の言葉が成就するためである。二六 わたしが父のみもとからあなたがたにつかわそうとしてゐる助け主、すなわち、父のみもとから来る真理の御霊が下る時、それはわたしについてあかしをするであらう。二七 あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのであるから、あかしをするのである。

第一六章 一 わたしがこれらのことを語ったのは、あなたがたがつまずくことのないためである。二人々はあなたがたを会堂から追い出すであらう。更にあなたがたを殺す者がみな、それによって自分たちは神に仕えているのだと思う時が来るであらう。三 彼らがそのようなことをするのは、父をもわたしをも知らないからである。四 わたしがあなたがたにこれらのことを言ったのは、彼らの時がきた場合、わたしが彼らについて言ったことを、思い起させるためである。これらのことを初めから言わなかったのは、わたしがあなたがたと一緒にいたからである。五 けれども今わたしは、わたしをつかわされたかたのところに行こうとしてゐる。しかし、あなたがたのうち、だれも『どこへ行くのか』と尋ねる者はない。六 かつて、わたしがこれらのことを言ったために、あなたがたの心は憂いで満たされてゐる。七 しかし、わたしはほんとうのことをあなたがたに言うが、わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないで

あらう。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう。八 それができたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであらう。九 罪についてと言ったのは、彼らがわたしを信じないからである。一〇 義についてと言ったのは、わたしが父のみもとに行き、あなたがたは、もはやわたしを見なくなるからである。二 さばきについてと言ったのは、この世の君がさばかれるからである。

三 わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今それに堪えられない。三 けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであらう。それは自分から語るのではなく、その聞くところを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであらう。四 御霊はわたしに栄光を得させるであらう。わたしのものを受けて、それをあなたがたに知らせるからである。五 父がお持ちになっているものはみな、わたしのものである。御霊はわたしのものを受けて、それをあなたがたに知らせるのだと、わたしが言ったのは、そのためである。六 七 しばらくすれば、あなたがたはもうわたしを見なくなる。しかし、またしばらくすれば、わたしに会えるであらう。八 九 そこで、弟子たちのうちのある者は互に言い合った、『しばらくすれば、わたしを見なくなる。またしばらくすれば、わたしに会えるであらう』と言われ、『わたしの父のところに行く』と言われたのは、いったい、

どういうことなのであろう。一八彼らはまた言った、「もしばらくすれば」と言われるのは、どういうことか。わたしたちには、その言葉の意味がわからない。一九イエスは、彼らが尋ねたがっていることに気がついて、彼らに言われた、「しばらくすればわたしを見なくなる、またしばらくすればわたしに会えるであらうと、わたしが言ったことで、互に論じ合っているのか。二〇よくよくあなたがたに言っておく。あなたがたは泣き悲しむが、この世は喜ぶであらう。あなたがたは憂えているが、その憂いは喜びに変わるであらう。二一女が子を産む場合には、その時がきたというので、不安を感じる。しかし、子を産んでしまえば、もはやその苦しみをおぼえてはいない。二二ひとりの人がこの世に生れた、という喜びがあるためである。二三このように、あなたがたにも今は不安がある。しかし、わたしは再びあなたがたと会うであらう。そして、あなたがたの心は喜びに満たされるであらう。その喜びをあなたがたから取り去る者はいない。二四その日には、あなたがたがわたしに問うことは、何もないであらう。よくよくあなたがたに言っておく。あなたがたが父に求めるものはなんでも、わたしの名によって下さるであらう。二五今までは、あなたがたはわたしの名によって求めたことはなかった。求めなさい、そうすれば、与えられるであらう。そして、あなたがたの喜びが満ちあふれるであらう。

二六わたしはこれらのことを比喻で話したが、もはや比喻では話さないで、あからさまに、父のことをあなたがたに話してきかせる時が来るであらう。二七その日には、あなたがたは、わたしの名によって求めるであらう。わたしは、あなたがたのために父に願ってあげようとは言うまい。二八父ご自身があなたがたを愛しておいでになるからである。それは、あなたがたがわたしを愛したため、また、わたしが神のみもとからきたことを信じたためである。二九わたしは父から出てこの世にきたが、またこの世を去って、父のみもとに行くのである。三〇弟子たちは言った、「今はあからさまにお話しになって、少しも比喻ではお話しになりません。三一あなたはすべてのことをご存じであり、だれもあなたにお尋ねする必要のないことが、今わかりました。このことによつて、わたしたちはあなたが神からこられたかたであると信じます。三二イエスは答えられた、「あなたがたは今信じているのか。三三見よ、あなたがたは散らされて、それぞれ自分の家に帰り、わたしをひとりだけ残す時が来るであらう。いや、すでにきている。しかし、わたしはひとりであるのではない。父がわたしと一緒におられるのである。三三これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

第一七章

「これらのことを語り終えんと、イエスは天を見あげて言われた、「父よ、時がきました。あなたの子があなたの栄光をあらわすように、子の栄光をあらわして下さい。二あなたは、子に賜わったすべての者に、永遠の命を授けさせるため、万民を支配する権威を子にお与えになったのですから。三永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。四わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました。五父よ、世が造られる前に、わたしがみそばで持っていた栄光で、今み前にわたしを輝かせて下さい。」

六わたしは、あなたが世から選んでわたしに賜わった人々に、み名をあらわしました。彼らはあなたのものでありましたが、わたしに下さいました。そして、彼らはあなたの言葉を守りました。七いま彼らは、わたしに賜わったものはすべて、あなたから出たものであることを知りました。八なぜなら、わたしはあなたからいただいた言葉を彼らに与え、そして彼らはそれを受け、わたしがあるから出たものであることをほんとうに知り、また、あなたがわたしをつかわされたことを信じるに至ったからです。九わたしは彼らのためにお願いします。わたしがお願ひするのは、この世のためではなく、あなたがわたしに賜わった者たちのためです。彼らはあなた

のものなのです。一〇わたしのものは皆あなたのもの、あなたのものはわたしのものです。そして、わたしは彼らによって栄光を受けました。二わたしはもうこの世にはいなくなりませんが、彼らはこの世に残っており、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに賜わった御名によって彼らを守って下さい。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。三わたしが彼らと一緒にいた間は、あなたからいただいた御名によって彼らを守り、また保護してまいりました。彼らのうち、だれも滅びず、ただ滅びの子だけが滅びました。それは聖書が成就するためでした。四今わたしはみもとに参ります。そして世に在る間にこれらのことを語るのには、わたしの喜びが彼らのうちに満ちあふれるためであります。五わたしは彼らに御言を与えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世のものでないように、彼らも世のものでないからです。六わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることであります。七わたしは世のものでないように、彼らも世のものではありません。八真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。九あなたがわたしを世につかわされたように、わたしも彼らを世につかわしました。一〇また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします。」

「わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。三父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。三わたしは、あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。三わたしは彼らにおり、あなたがわたしにいますのは、彼らが完全に一つとなるためであり、また、あなたがわたしをつかわし、わたしを愛されたように、彼らをお愛しになったことを、世が知るためであります。二父よ、あなたがわたしに賜った人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい。天地が造られる前からわたしを愛して下さい、わたしに賜った栄光を、彼らに見させて下さい。三正しい父よ、この世はあなたを知っていません。しかし、わたしはあなたを知り、また彼らも、あなたがわたしをおつかわしになったことを知っています。二六そしてわたしは彼らに御名を知らせました。またこれからも知らせましょう。それは、あなたがわたしを愛して下さい、その愛が彼らのうちにあり、またわたしも彼らのうちにおるためであります」。

第一八章 イエスはこれらのことを語り終えて、弟子たちと一緒にケデロンの谷の向こうへ行かれた。そこには園があつて、イエスは弟子たちと一緒にその中に入られた。二イエスを裏切ったユダは、その所をよく知っていた。イエスと弟子たちとがたびたびそこで集まったことがあるからである。三さてユダは、一隊の兵卒と祭司長やパリサイ人たちの送った下役どもを引き連れ、たいまつやあかりや武器を持って、そこへやってきた。四しかしイエスは、自分の身を起ころうとすることをことごとく承知しておられ、進み出て彼らに言われた、「だれを捜しているのか」。五彼らは「ナザレのイエスを」と答えた。イエスは彼らに言われた、「わたしが、それである」。イエスを裏切ったユダも、彼らと一緒に立っていた。六イエスが彼らに「わたしが、それである」と言われたとき、彼らはうしろに引きさがって地に倒れた。七そこでまた彼らに、「だれを捜しているのか」とお尋ねになると、彼らは「ナザレのイエスを」と言った。八イエスは答えられた、「わたしはそれであると、言ったではないか。わたしを捜しているのなら、この人たちを去らせてもらいたい」。九それは、「あなたが与えて下さった人たちの中のひとりも、わたしは失わなかった」とイエスの言われた言葉が、成就するためである。一〇シモン・ペテロは剣を持っていたが、それを抜いて、大祭司の僕に切りかかり、その右の耳を切り落した。その僕の名はマルコスで

あった。二すると、イエスはペテロに言われた、「剣をさやに納めなさい。父がわたしに下さった杯は、飲むべきではないか」。

三それから一隊の兵卒やその千卒長やユダヤ人の下役どもが、イエスを捕え、縛りあげて、三まずアンナスのところへ引き連れて行った。彼はその年の大祭司カヤパのしゅうとであつた。四カヤパは前に、ひとりの人が民のために死ぬのはよいことだと、ユダヤ人に助言した者であつた。

五シモン・ペテロともうひとりの弟子とが、イエスについて行った。この弟子は大祭司の知り合いであつたので、イエスと一緒に大祭司の中庭にはいった。六しかし、ペテロは外で戸口に立っていた。すると大祭司の知り合いであるその弟子が、外に出て行って門番の女に話し、ペテロを内に入れてやった。七すると、この門番の女がペテロに言った、「あなたも、あの人の弟子のひとりではありませんか」。ペテロは「いや、そうではない」と答えた。八僕や下役どもは、寒い時であつたので、炭火をおこし、そこに立ってあたたっていた。ペテロもまた彼らに交じり、立ってあたたっていた。

九大祭司はイエスに、弟子たちのことやイエスの教のことを尋ねた。一〇イエスは答へられた、「わたしはこの世に対して公然と語ってきた。すべてのユダヤ人が集まる会堂や宮で、いつも教えていた。何事も隠れて語つ

たことはない。三なぜ、わたしに尋ねるのか。わたしが彼らに語ったことは、それを聞いた人々に尋ねるがよい。わたしの言ったことは、彼らが知っているのだから。四イエスがこう言われると、そこに立っていた下役のひとりが、「大祭司にむかつて、そのような答をするのか」と言つて、平手でイエスを打った。五イエスは答へられた、「もしわたしが何か悪いことを言ったのなら、その悪い理由を言いなさい。しかし、正しいことを言ったのなら、なぜわたしを打つのか」。六それからアンナスは、イエスを縛つたまま大祭司カヤパのところへ送った。

七シモン・ペテロは、立って火にあたっていた。すると人々が彼に言った、「あなたも、あの人の弟子のひとりではないか」。彼はそれをうち消して、「いや、そうではない」と言った。八大祭司の僕のひとりで、ペテロに耳を切りおとされた人の親族の者が言った、「あなたが園であの人と一緒にいるのを、わたしは見ただけではないか」。九ペテロはまたそれを打ち消した。するとすぐに、鶏が鳴いた。

一〇それから人々は、イエスをカヤパのところから官邸につれて行った。時は夜明けであつた。彼らは、けがれを受けないで過越の食事ができるように、官邸にはいらなかつた。二九そこで、ピラトは彼らのところへ出てきて言った、「あなたがたは、この人に対してどんな訴えを起すのか」。三〇彼らはピラトに答へて言った、「もしこの人

が悪事をはたらかなかつたなら、あなたに引き渡すようなことはしなかつたでしよう。三そこでピラトは彼らに言った、「あなたがたは彼を引き取って、自分たちの律法でさばくがよい」。ユダヤ人は彼に言った、「わたしたちは、人を死刑にする権限がありません」。三これは、ご自身がどんな死にかたをしようとしているかを示すために言われたイエスの言葉が、成就するためである。三さて、ピラトはまた官邸にはいり、イエス呼び出して言った、「あなたは、ユダヤ人の王であるか」。三四イエスは答えられた、「あなたがそう言うのは、自分の考えからか。それともほかの人々が、わたしのことをあなたにそう言ったのか」。三五ピラトは答えた、「わたしはユダヤ人なのか。あなたの同族や祭司長たちが、あなたをわたしに引き渡したのだ。あなたは、いったい、何をしたのか」。三六イエスは答えられた、「わたしの国はこの世のものではない。もしわたしの国がこの世のものであれば、わたしに従っている者たちは、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったであろう。しかし事実、わたしの国はこの世のものではない」。三七そこでピラトはイエスに言った、「それでは、あなたは王なのだな」。イエスは答えた、「あなたの方で言うとおりに、わたしは王である。わたしは真理についてあかしをするために生れ、また、そのためにこの世にきたのである。だれでも真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける」。三八ピラトはイエスに言っ

た、「真理とは何か」。こう言って、彼はまたユダヤ人の所に出て行き、彼らに言った、「わたしには、この人になんの罪も見いだせない。三九過越の時には、わたしがあなたがたのために、ひとりの人を許してやるのが、あなたがたのしきたりになっている。ついては、あなたがたは、このユダヤ人の王を許してもらいたいのか」。四〇すると彼らは、また叫んで、「その人ではなく、バラバを」と言った。このバラバは強盗であった。

第一九章 「そこでピラトは、イエスを捕え、むちで打たせた。二兵卒たちは、いばらで冠をあんて、イエスの頭にかぶらせ、紫の上着を着せ、三それからその前に進み出て、「ユダヤ人の王、ばんざい」と言った。そして平手でイエスを打ちつづけた。四するとピラトはまた出て行ってユダヤ人たちに言った、「見よ、わたしはこの人をあなたにわたす前に引き出すが、それはこの人になんの罪も見いだせないことを、あなたがたに知ってもらうためである」。五イエスはいばらの冠をかぶり、紫の上着を着たままで外へ出られると、ピラトは彼らに言った、「見よ、この人だ」。六祭司長たちや下役どもはイエスを見ると、叫んで「十字架につけよ、十字架につけよ」と言った。ピラトは彼らに言った、「あなたがたが、この人を引き取って十字架につけるがよい。わたしは、彼にはなんの罪も見いだせない」。七ユダヤ人たちは彼に答えた、「わたしたちには律法があります。その律法によれば、彼

は自分を神の子としたのだから、死罪に当る者です」。ハピラトがこの言葉を聞いたとき、ますますおそれ、もう一度官邸にはいつてイエスに言った、「あなたは、もともと、どこからきたのか」。しかし、イエスはなんの答もなさらなかった。そこでピラトは言った、「何も答えないのか。わたしには、あなたを許す権威があり、また十字架につける権威があることを、知らないのか」。イエスは答えられた、「あなたは、上から賜わるのでなければ、わたしに対してなんの権威もない。だから、わたしをあなたに引き渡した者の罪は、もっと大きい」。三これを聞いて、ピラトはイエスを許そうと努めた。しかしユダヤ人たちが叫んで言った、「もしこの人を許したなら、あなたはカイザルの味方ではありません。自分を王とするものはすべて、カイザルにそむく者です」。二二ピラトはこれらの言葉を聞いて、イエスを外へ引き出して行き、敷石（ヘブル語ではガバタ）という場所で裁判の席についた。二四その日は過越の準備の日であって、時は昼の十二時ころであつた。ピラトはユダヤ人らに言った、「見よ、これがあなたがたの王だ」。二五すると彼らは叫んだ、「殺せ、殺せ、彼を十字架につけよ」。ピラトは彼らに言った、「あなたがたの王を、わたしが十字架につけるのか」。祭司長たちは答えた、「わたしたちには、カイザル以外に王はありません」。二六そこでピラトは、十字架につけさせるために、イエスを彼らに引き渡した。

彼らはイエスを引き取った。二七イエスはみずから十字架を背負って、されこうべ（ヘブル語ではゴルゴタ）という場所に出て行かれた。二八彼らはそこで、イエスを十字架につけた。イエスをまん中にして、ほかのふたりの者を両側に、イエスと一緒に十字架につけた。二九ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上にかけてさせた。それには「ユダヤ人の王、ナザレのイエス」と書いてあつた。三〇イエスが十字架につけられた場所は都に近かつたので、多くのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。それはヘブル、ローマ、ギリシヤの国語で書いてあつた。三ユダヤ人の祭司長たちがピラトに言った、『ユダヤ人の王』と書かずに、『この人はユダヤ人の王と自称していた』と書いてほしい。三三ピラトは答えた、「わたしが書いたことは、書いたままにしておけ」。三三さて、兵卒たちはイエスを十字架につけてから、その上着をとって四つに分け、おのおの、その一つを取った。また下着を手にとってみたが、それには縫い目がなく、上の方から全部一つに織つたものであつた。二四そこで彼らは互に言った、「それを裂かないで、だれのものになるか、くじを引こう」。これは、「彼らは互にわたしの上着を分け合い、わたしの衣をくじ引にした」という聖書が成就するため、兵卒たちはそのようにしたのである。二五さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロバの妻マリヤと、マグダラのマリヤと

が、たたずんでいた。二六イエスは、その母と愛弟子とがそばに立っているのをごらんになって、母にいわれた、「婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です」。二七それからこの弟子に言われた、「ごらんなさい。これはあなたの母です」。そのとき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとった。

二八そののち、イエスは今や万事が終ったことを知って、「わたしは、かわく」と言われた。それは、聖書が全うされるためであった。二九そこに、酔いぶどう酒がいっぱい入っている器が置いてあったので、人々は、このぶどう酒を含ませた海綿をヒソプの茎に結びつけて、イエスの口もとにさし出した。三〇すると、イエスはそのぶどう酒を受けて、「すべてが終った」と言われ、首をたれて息をひきとられた。

三一さてユダヤ人たちは、その日が準備の日であったので、安息日に死体を十字架の上に残しておくまいと、(特にその安息日は大事な日であったから)、ピラトに願って、足を折った上で、死体を取りおろすことにした。三二そこで兵卒らがきて、イエスと一緒に十字架につけられた初めの者と、もうひとりの者との足を折った。三三しかし、彼らがイエスのところに来た時、イエスはもう死んでおられたのを見て、その足を折ることはしなかった。三四しかし、ひとりの兵卒がやりでそのわきを突きさすと、すぐ血と水とが流れ出た。三五それを見た者があかしをし

た。そして、そのあかしは真実である。その人は、自分が真実を語っていることを知っている。それは、あなたがたも信ずるようになるためである。三六これらのことが起ったのは、「その骨はくだかれないであろう」との聖書の言葉が、成就するためである。三七また聖書のほかのところに、「彼らは自分が刺し通した者を見るであろう」とある。

三八そののち、ユダヤ人をはばかり、ひそかにイエスの弟子となったアリマタヤのヨセフという人が、イエスの死体を取りおろしたいと、ピラトに願ひ出た。ピラトはそれを許したので、彼はイエスの死体を取りおろしに行った。三九また、前に、夜、イエスのみもとに行つたニコデモも、没薬と沈香とをまぜたものを百斤ほど持つてきた。四〇彼らは、イエスの死体を取りおろし、ユダヤ人の埋葬の習慣にしたがつて、香料を入れて亜麻布で巻いた。四一イエスが十字架にかけられた所には、一つの園があり、そこにはまだだれも葬られたことのない新しい墓があった。四二その日はユダヤ人の準備の日であったので、その墓が近くにあったため、イエスをそこに納めた。

第二〇章 一さて、一週の初めの日に、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリヤが墓に行くと、墓から石がとりのけてあるのを見た。二そこで走って、シモン・ペテロとイエスが愛しておられた、もうひとりの弟子のところへ行つて、彼らに言つた、「だれかが、主を墓か

ら取り去りました。どこへ置いたのか、わかりません」。そこでペテロともうひとりの弟子は出かけて、墓へむかつて行った。四ふたりは一緒に走り出したが、そのもうひとりの弟子の方が、ペテロよりも早く走って先に墓に着き、五そして身をかがめてみると、亜麻布がそこに置いてあるのを見たが、中へははいらなかった。六シモン・ペテロも続いてきて、墓の中にはいった。彼は亜麻布がそこに置いてあるのを見たが、イエスの頭に巻いてあった布は亜麻布のそばにはなくて、はなれた別の場所にくるめてあった。八すると、先に墓に着いたもうひとりの弟子もはいつてきて、これを見て信じた。九しかし、彼らは死人のうちからイエスがよみがえるべきことをしるした聖句を、まだ悟っていなかった。一〇それから、ふたりの弟子たちは自分の家に帰って行った。二しかし、マリヤは墓の外に立って泣いていた。そして泣きながら、身をかがめて墓の中をのぞくと、三白い衣を着たふたりの御使が、イエスの死体のおかれていた場所に、ひとり頭の方に、ひとりは足の方に、すわっているのを見た。四三すると、彼らはマリヤに、「女よ、なぜ泣いているのか」と言った。マリヤは彼らに言った、「だれかが、わたしの主を取り去りました。そして、どこに置いたのか、わからないのです」。五そう言って、うしろをふり向くと、そこにイエスが立っておられるのを見た。しかし、それがイエスであることに気がつかな

かった。六イエスは女に言われた、「女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか」。マリヤは、その人が園の番人だと思って言った、「もしあなたが、あのかたを移したのであれば、どこへ置いたのか、どうぞ、おっしゃって下さい。わたしがそのかたを引き取ります」。七イエスは彼女に「マリヤよ」と言われた。マリヤはふり返って、イエスにむかってヘブル語で「ラボニ」と言った。それは、先生という意味である。八イエスは彼女に言われた、「わたしにさわってはいけない。わたしは、まだ父のみもとに上っていないのだから。ただ、わたしの兄弟たちの所に行つて、『わたしは、わたしの父またあなたがたの父であつて、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上つて行く』と、彼らに伝えなさい」。九マгдаラのマリヤは弟子たちのもとに行つて、自分が主に会つたこと、またイエスがこれこれのことを自分に仰せになつたことを、報告した。一〇その日、すなわち、一週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人をおそれて、自分たちのおる所の戸をみなしめていると、イエスがはいつてきて、彼らの中に立ち、「安かれ」と言われた。一一そう言つて、手とわきとを、彼らにお見せになつた。弟子たちは主を見て喜んだ。一二イエスはまた彼らに言われた、「安かれ。父がわたしをおつかわしになつたように、わたしもまたあなたがたをおつかわす」。一三そう言つて、彼らに息を吹きかけて仰せ

になった、「聖霊を受けよ。三 あなたがたが許す罪は、だれの罪でも許され、あなたがたが許さずにおく罪は、そのままだるであらう」。

二四 十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれているトマスは、イエスがこられたとき、彼らと一緒にいなかった。二五 ほかの弟子たちが、彼に「わたしたちは主にお目にかかった」と言うとき、トマスは彼らに言った、「わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない」。

二六 八日のうち、イエスの弟子たちはまた家の内におり、トマスも一緒にいた。戸はみな閉ざされていたが、イエスはいつてこられ、中に立って「安かれ」と言われた。二七 それからトマスに言われた、「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手をのばしてわたしのわきにさし入れてみなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい」。二八 トマスはイエスに答えて言った、「わが主よ、わが神よ」。二九 イエスは彼に言われた、「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである」。

三〇 イエスは、この書に書かれていないしるしを、ほかにも多く、弟子たちの前で行われた。三一 しかし、これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエス

の名によって命を得るためである。

第二一章 そののち、イエスはテベリヤの海で、ご自身をまた弟子たちにあらわされた。そのあらわされた次第は、こうである。三二 シモン・ペテロが、デドモと呼ばれているトマス、ガリラヤのカナのナタナエル、ゼバイの子らや、ほかのふたりの弟子たちと一緒にいた時のことである。三三 シモン・ペテロは彼らに「わたしは漁に行くのだ」と言うとき、彼らは「わたしたちも一緒に行く」と言った。彼らは出て行って舟に乗った。しかし、その夜はなんの獲物もなかった。三四 夜が明けたころ、イエスが岸に立っておられた。しかし弟子たちはそれがイエスだとは知らなかった。三五 イエスは彼らに言われた、「子たちよ、何か食べるものがあるか」。彼らは「ありません」と答えた。三六 すると、イエスは彼らに言われた、「舟の右の方に網をおろして見なさい。そうすれば、何かとれるだらう」。彼らは網をおろすと、魚が多くとれたので、それを引き上げることができなかった。三七 イエスの愛しておられた弟子が、ペテロに「あれは主だ」と言った。シモン・ペテロは主であると聞いて、裸になっただけのため、上着をまとって海にとびこんだ。三八 しかし、ほかの弟子たちは舟に乗ったまま、魚のはいっている網を引きながら帰って行った。陸からはあまり遠くない五十間ほどの所にいたからである。三九 彼らが陸に上って見ると、炭火がおこしてあって、そ

の上に魚がのせてあり、またそこにパンがあつた。
 「イエスは彼らに言われた、『今とった魚を少し持つてきなさい』。」「シモン・ペテロが行つて、網を陸へ引き上げると、百五十三びきの大きな魚でいっぱいになつてゐた。そんなに多かつたが、網はさけないでいた。」「イエスは彼らに言われた、『さあ、朝の食事をしなさい』。」「弟子たちは、主であることがわかつていたので、だれも『あなたとはどなたですか』と進んで尋ねる者がなかつた。」「イエスはそこにきて、パンをとり彼らに与え、また魚も同じようにされた。」「イエスが死人の中からよみがえつたのち、弟子たちにあらわれたのは、これで既に三度目である。」

「一五」彼らが食事をすませると、イエスはシモン・ペテロに言われた、『ヨハネの子シモンよ、あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか』。」「ペテロは言つた、『主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです』。」「イエスは彼に『わたしの小羊を養いなさい』と言われた。」「一六」またもう一度彼に言われた、『ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか』。」「彼はイエスに言つた、『主よ、そうです。わたしがあなたを愛することとは、あなたがご存じです』。」「イエスは彼に言われた、『わたしの羊を飼いなさい』。」「一七」イエスは三度目に言われた、『ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか』。」「ペテロは『わたしを愛するか』とイエスが三度も言われたの

で、心をいためてイエスに言つた、『主よ、あなたはすべてをご存じです。わたしがあなたを愛していることは、おわかりになつています』。」「イエスは彼に言われた、『わたしの羊を養いなさい』。」「一八」よくよくあなたに言つておく。あなたが若かつた時には、自分で帶をしめて、思いのままに歩きまわつてゐた。しかし年をとつてからは、自分の手をのばすことになる。そして、ほかの人があなたに帶を結びつけ、行きたくない所へ連れて行くであらう。」「一九」これは、ペテロがどんな死に方で、神の栄光をあらわすかを示すために、お話しになつたのである。こゝう話してから、『わたしに従つてきなさい』と言われた。」「二〇」ペテロはふり返ると、イエスの愛しておられた弟子がついて来るのを見た。この弟子は、あの夕食のときイエスの胸近くに寄りかかつて、『主よ、あなたを裏切る者は、だれなのですか』と尋ねた人である。」「二一」ペテロはこの弟子を見て、イエスに言つた、『主よ、この人はどうなのですか』。」「三」イエスは彼に言われた、『たとい、わたしの来る時まで彼が生き残つてゐることを、わたしが望んだとしても、あなたがあなたにはなんの係わりがあるか。あなたは、わたしに従つてきなさい』。」「二三」こゝういふわけで、この弟子は死ぬことがないというわさが、兄弟たちの間にひろまつた。しかし、イエスは彼が死ぬことはないと言われたのではなく、ただ『たとい、わたしの来る時まで彼が生き残つてゐることを、わたしが望んだとしても、あな

